

1999年度
講義計画

桃山学院大学

講 義 計 画

1999年

精義拾遺

精義拾遺

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習	03	通 期	4 単位	上野 勝男
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>ふだん口にしている食べ物を諸君はどのように考えているだろうか？ともすると、テレビや自動車と同じ工業製品であるかのような錯覚をもっていないだろうか？どこでもいつでも工場と原材料さえあれば製造できて、お金さえあればいつでも買える。だから、日本で作るより外国でもっと安く大量に作られるのなら、日本に農業なんていらぬのでは・・・。</p> <p>さて、「飽食の時代」に生まれ育った諸君はこの問題にどのように答えるだろうか？食べるという人間にとって根元的な問題を、そうであるがゆえにかえって満腹のあとのぼんやりとした意識の中でしか考えていないのではないだろうか？テレビをつうじて知る「飢えた世界」の存在なんて自分の生活には関係ないのか、緑の大地、美しい水田（田園）風景はたまさかの観光だけのものであって、退屈な生活のシンボルにすぎないのだろうか？</p> <p>以上のような問題を、テキストをじっくりと読みながら、みんなでさまざまな角度から検討し議論しようという「演習」形式によって考えていきます。演習は初めてでしようから、最初は「やり方」を確実に身につけることができるようにゆっくりとすすめます。また、このなかで、大学での学び方・学生生活一般についてもアドバイスをするつもりです。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>演習の開始時に説明します。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>演習はいっしょに討論し考えることが何よりも大切です。だから、出席しないことには何も始まらないのです。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>梶井 功（著）『日本農業のゆくえ』（岩波ジュニア新書 244）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習	04	通 期	4 単位	梅 本 哲 世
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経済学を学ぶ際に必要なのは、現実の経済事象にたいする生き生きとした関心である。今、日本と世界でどのような経済問題が起こっており、それをどのように理解し、どのようにしたら解決できるのか、という問題意識を常に持ち続けることが大切である。</p> <p>この演習では以上のような趣旨を踏まえて、現在の日本経済で生起している様々な経済問題について具体的に学習していく。たとえば、世界経済と多国籍企業、家計、消費者問題、情報化、廃棄物問題などについて、テキストにそって一緒に考えていきたい。</p> <p>この演習の目標は、いま新聞やテレビで報道されている経済問題について一応の理解ができる程度の基礎知識の習得である。授業は基本的にテキストを輪読する形で行うが、適時ビデオ教材も使用して具体的なイメージで経済を考えることができるようにしたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>【前期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.資本主義社会成立史 2.高度成長から「経済大国」へ 3.世界経済から地球経済へ 4.現代世界経済のしくみ <p>5. 租税と国家財政</p> <p>6. 地方分権と地方財政</p> <p>7. 家計、賃金、労働</p> <p>【後期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.大競争時代の流通と消費者問題 2.成熟社会のもとでの高齢者問題 3.食品環境と食料危機 4.廃棄物とリサイクル <p>5. コンピュータと社会生活</p> <p>6. 新しい時代の到来と自動車</p> <p>7. エネルギー問題と地球環境危機</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席を重視し、演習での態度（報告・発言など）およびレポートなどにより総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>演習中に適時指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>佐々木佳代編著『地球時代の経済学』（ミネルヴァ書房）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習	05	通 期	4 単位	木 村 二 郎
<p>[講義概要・学習目標] 世紀末の日本経済は長期不況・金融システム不安に陥り、アジア・ロシア・中南米そして米欧へと世界的な金融・経済危機の様相が強まっている。激動する世界経済の中における現代の日本経済が直面している問題の本質は何か、その問題はどのような歴史の流れの中から発生し、今後どうなっていくのか。私たちを取り巻く経済の状況を自分の頭脳でキャッチして、その問題点を理解し、解決の方向を自分なりに考えることが、自立した自由人の基本的条件であるといえよう。 この基礎演習では、第1に、テキストを輪読しながら、日本経済がかかえるさまざまな現実の具体的な問題を学習する。交替にレジュメ作成・報告を行い、それに基づいて全体で討論して認識を深める。時に応じて、テキストのテーマに沿った時事問題の報告も織り込む予定である。この輪読を通じて、大学で経済学を学んでいく基本的方法を身につけ、経済を研究することの面白さを理解することを目標にする。 第2に、カレントなテーマを選択して、ディベート(討論)を班対抗で行う。このディベートでは、相手の意見に対抗して自分の見解を述べる訓練を通じて、討論する能力を養うと共に、さまざまな問題に対する認識を深めることを目標にする。</p>	<p>[講義計画] 時事問題報告、テキスト各章(景気・経済成長・財政・金融改革・経済摩擦・産業構造・地球環境など)の輪読、ディベートを前後期を通じて行う。なお、夏休みには最低1冊は日本経済に関する書籍を読んでレポートを提出するのが課題である。</p>			
<p>[成績評価の方法] 出席は前提。演習に対する取り組みの積極性とレポートやテストなどを総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書] 日本経済新聞社編『ゼミナール日本経済入門』(1999年版)日本経済新聞社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習	06	通 期	4 単位	巖 善 平
<p>[演習概要・学習目標] 1. 概要 経済学とはどういう学問か。経済学部志望の受験生に聞くと、「モノやカネの動きを説明するもの」との答えが多かった。もちろん、経済学の内容は非常に豊富で、その扱う領域も遥かに幅広い。この基礎演習の目的は、新聞やテレビでよく取り上げられる様々な経済問題を理解するための最小必要限の基礎知識を習得することである。経済学入門編の教科書に基づいて解説を行い、練習問題を皆で考える。 同時に、様々な経済問題の実例も適時に紹介し分析を加える。また、必要に応じて、時事経済問題について新聞などを予め調べて貰い、グループ別の討論会・弁論会を学生の司会で行う予定である。</p>	<p>[演習計画]</p>			
<p>[成績評価の方法] 必修であるため、出席状況にも配点する。出席3割+発表の準備3割+テスト4割</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書] ステイグリッツ著『経済学入門』東洋経済新報社。/生協で購入</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習	07 08	通 期 通 期	4 単位 4 単位	芝 村 篤 樹
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>基礎演習の学習目標は、社会科学を学ぶ大学生として最低限度必要な態度、能力、知識を養うことである。それはまず、「今」という時代に疑問や批判意識（問題意識）をもつこと、その問題意識に従って活字情報（書物）を正確に読みとり、書き言葉、話し言葉のいずれにおいても、適切かつ個性的に発信できる能力を身につけることである。以上から演習として、①教材を使った報告、討論、②各自の選んだテーマに基づく報告、討論を行う。積極的に演習に参加する意欲がなければ、この時間はほとんど意味をなさない。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>①社会科学の基礎についての講義、②教材を使用した講読、報告、討論、③各自の選んだテーマに基づく報告、討論。①、②は前期、③は後期に実施し、適時レポートを課す。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席、報告、討論とレポートの状況によって判定する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>その都度指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>教材を配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習	09	通 期	4 単位	鈴 木 健
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>わたしたちの周りでは日々大量の政治・経済現象が生起しており、好むと好まざるとにかかわらず、それらの諸現象について判断を求められる。けれども、日々生起する政治・経済現象について、それを根本的にとらえるという作業は必ずしも簡単なことではない。</p> <p>この基礎演習は、経済学を初めて学ぶ一回生が、日本と世界で生起する政治・経済現象に深い関心をもち、諸現象のつながりとその「真相」を追い求めようとする探求心を身につけるために必要な訓練を行う場である。現代の日本と世界の政治・経済生活を考えるうえで参考となる書物を取りあげ、それを素材として報告し、報告にもとづいて討論し、報告者の見解と他の演習参加者との見解の相違を明らかにしつつ、事柄の「真相」に迫る思考の訓練を行う。</p>	<p>[演習計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回、演習の進め方と年間計画の解説 ・第2回、演習における報告の「模範演技」① ・第3回、演習における報告の「模範演技」② ・第4回 ～ 演習参加者による報告と討論 ・第26回 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>次の三つの評価の総合によって決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一、出席日数。2/3以上の出席が義務。 ・第二、報告を担当するさいの準備の身身、報告の内容、討論への参加の仕方。 ・第三、他の報告者の報告を素材とする討論への参加の仕方。 	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暁峻淑子『豊かさとは何か』（岩波新書） ・富山和子『日本の米』（中公新書） ・橋本寿郎『戦後日本経済』（岩波新書） 				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習	10	通 期	4 単位	滝 田 和 夫
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>経済学とは金儲けのノウハウを教えてくれるものかと思って経済学部に入ったのに、ちっとも教えてくれない。どうやら、先生は教えてくれないのではなく、もともと知らないらしい。先生自身、金持ちそうにはとても見えなから・・・。</p> <p>経済学部に入って、こんな発見に軽い衝撃を感じる学生諸君も少なくないことだろう。確かに、経済学は利殖の方法などを教える学問ではない。しかし、実は利殖法の方は経済理論を結構利用しているのである。そこで、利殖法の中でも経済理論に近い設備投資法の勉強を通じて経済理論を身につけることができなからと思ってやってみるのが、この基礎演習である。演習ではありもしない大金の計算のために、パソコンを算盤代わりに利用するが、事前のパソコンの知識は不要である。演習の目標は経済理論の基本ロジックの修得にあるが、同時にそれを通じた「読み書き算盤」能力の育成にも力点を置きたい。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>一応テキストに沿って進む。パソコンを利用する少人数の演習なので、宿題やレポートを通じてできるだけ双方向のものとした。実習なので毎回の出席と努力を最重視する。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席・レポート・小テストの総合評価となるであろう。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>柴川林也著 『新版 投資決定論』 同文館</p>			
<p>[教科書]</p> <p>千住謙雄／伏見多美雄著 『設備投資計画法』 日科技連出版社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習	11	通 期	4 単位	竹 歳 一 紀
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>下に掲げたテキストの帯にも書かれているように、人生は「経済的選択の連続」と言うこともできる。</p> <p>そこで、経済と経済学の基礎を学ぶ出発点として、われわれの一生の中で直面する様々な現象、例えば進学、就職、結婚、転職、昇進、引退、といったことが経済学的にどう説明されるのかを考えてみたい。そしてこれを材料に、経済学の基礎知識を習得していくことにする。</p> <p>この演習を通じて、現実の経済問題への関心を持ってもらおうと同時に、現実社会を「斬る」道具としての経済学を身近なものに感じてもらいたい。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>テキストを読んだの報告を中心に進めるが、トピックに合わせて、新聞記事の報告・説明、ビデオ教材での学習なども行う予定である。</p> <p>後期には、各自の選んだテーマにもとづく報告も行う。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>小テスト（2回程度予定）、レポート（夏休み）、テキストの報告、出席状況などから総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>橘木俊詔（著）『ライフサイクルの経済学』（ちくま新書）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習	1 2	通 期	4 単位	竹 原 憲 雄
【講義概要・学習目標】 戦後日本経済の展開過程をたどってみる。低迷する日本経済の現状を戦後の大きな流れのなかでとらえてみようとするためである。それはまた今後の日本経済についての確な見通しを立てるためでもある。ここから経済問題の理解の仕方を学んでもらいたい。 毎回報告者のレジュメをもとに進める。	【講義計画】 テキストを中心に内容の分担報告と討論			
【成績評価の方法】 出席状況、分担部分の報告および提出レポートによって評価する。	【参考文献】 演習のなかで紹介する			
【教科書】 小島 恒久 (著) 『戦後日本経済の流れ』 (河出書房新社)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習	1 3	通 期	4 単位	望 月 和 彦
【講義概要・学習目標】 「地上に平和をもたらすために、わたしがきたと思うな。平和ではなく、つるぎを投げ込むためにきたのである」 (マタイ福音書) そもそも学校というところは、生き方の定まらない人間たちが生き方を求めて集まってくるところと見ることができる。「学校なんて何の役に立つのか」と言いながら、ほとんどの若者は高校に行き、多くの人はさらに大学に進学する。なんののかのといっても、とりあえず学歴だけは押さえておこうというのである。つまり生き方がわからないものだから、学歴にすがってみるのである。てなわけで大学まで来てみたものの、世の中をどう渡っていけばいいかなんて誰も教えてくれるわけではない。でもここは大学である、最高学府である。これ以上進学することはできない。つまりここで皆さんは、結論を出さねばならないのだ！さてどうする？とどのつまりは、自分の人生は自分で考えて自分で決めなければならないのである。いや困った！ということで、皆さんに自分で物事を考える訓練をしてみようというのが、この基礎演習の目的である。この基礎演習では、論理的な思考の仕方を学ぶ。できるだけ具体的に、社会問題や倫理上の問題を徹底的に論理的に考えることによって、論理の構造と、その根底にある世界観や価値観を理解する。そこで自分なりのものの見方、考え方が身に付けば、このゼミは大成功ということになる。その結果、何事にも一家言をもつ「カワイクナイ」人間ができるかも知れないが…、まっ、いいか！？	【講義計画】 この基礎演習は、以下のようなやり方で行う。 ◆テキストの輪読その一 テキスト：竹内靖雄 『経済倫理学のすすめ』 中公新書 このテキストを熟読玩味し、筆者の問いに答えることで、合理的思考を養う。 ◆テキストの輪読その二 テキスト：高橋伸顕 『数字に問う日本の豊かさ』 中公新書 とかく現実より理論が先行しがちなこの時代に、現実を理解することは容易なことではない。そこで身近な経済の話題から日本社会の抱える問題について理解を深めていく。 ◆新聞を読む これは、社会科学の勉強に必要な社会に関する知識を豊かにするとともに、新聞やマスコミに対して批判的な見方を養う目的を持っている。 ◆ディベート (討論) これは、今日の日本社会がどんな問題を抱えているかを理解するとともに、自分の意見を論理的に組み立て、発表できる能力を身につけることを目的としている。			
【成績評価の方法】 出席、発表、課題提出によって評価する。	【参考文献】 文藝春秋編 『日本の論点』 シリーズ 文藝春秋社 鷲田小彌太 『哲学がわかる事典』 日本実業出版社 鷲田小彌太 『現代思想がわかる事典』 日本実業出版社 よみうりテレビ編 『紳助のサルでもわかるニュース』 実業之日本社 猪瀬直樹 『日本国の研究』 文藝春秋社 浅羽通明 『大学で何を学ぶか』 幻冬舎			
【教科書】 竹内靖雄 『経済倫理学のすすめ』 中公新書 高橋伸顕 『数字に問う日本の豊かさ』 中公新書				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習	14	通 期	4 単位	野 田 知 彦
【講義概要・学習目標】 この基礎演習の目的は、経済学の基本的な考え方を身につけることである。具体的な題材としては、進学、就職、賃金、雇用、昇進、結婚などの生活に関わる身近な問題をとりあげる。これらの問題を経済学的に分析すればどのようなことがわかるのか、ということを経済学の基礎的な考え方から説き起こしていく。また、後期には、学生諸君自身の問題意識にもとづいてレポートを作成してもらうことにする。	【講義計画】 最初授業でケースを配る			
【成績評価の方法】 発表レポート	【参考文献】 授業中の指示			
【教科書】 「ライオン社の経済学」 橋本俊彦著 7は新書				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習	15	通 期	4 単位	濱 田 博 男
【演習概要・学習目標】 現代資本主義社会の重要な経済単位である企業（＝会社）の仕組みや活動の変遷を勉強することをつうじて、現実の日本経済や世界経済の動きについての理解と関心を深めるようにしたいと考えています。 ゼミナールでは、テキストの各章を各自分担して報告・討論して貰います。そのさい報告者には簡単なレジュメ（内容の要点と意見をまとめたもの）を用意して貰います。 そのほか、そのときどきの新聞記事などを材料にして、重要と思われる問題について解説することも予定しています。	【演習計画】 〈前期〉 1. プロローグ 2. 戦後改革－日本の経営のみならず 3. 混乱から復興へ 4. 産業政策の果たした役割 〈後期〉 8. 技術革新 9. 中小企業のダイナミズム 10. 日本の労使関係の成立 11. マーケティングの導入と流通革新 5. 財閥から企業集団へ 6. 間接金融方式の定着 7. 産業構造の変化とリストラクチャリング 12. 経営理念 13. 戦後の総決算としての円高構造調整 14. グローバル時代へ			
【成績評価の方法】 出席状況ならびにゼミナールでの報告・討論への積極的な姿勢を重視します。年2回のテストの成績とあわせて総合的に評価します。	【参考文献】			
【教科書】 下川浩一（著）『日本の企業発展史』（講談社／現代新書）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習	16	通 期	4 単位	落 谷 硯 児
【講義概要・学習目標】 1990年代の長期不況において日本経済は根本的な構造改革を迫られている。この演習においてはまず現下の日本経済の危機の要因について学習し、次いでその原因とそこから月次出案を考察する。そのためにこれらより日本経済の構造、日本の経営システムの特徴、規制緩和の国際比較、地方分権問題、日本型福祉国家への途等について学習を行う。そうした過程で21世紀の新しい日本経済の進むべき途について省察を深めることを目標とする。	【講義計画】 ほぼテキストの順序に従って学習をすすめ、各自に発表課題と5-11頁次発表を行わせ、全員の討議を行なうことにより理解を深めたいと考えている。 さらに適宜経済時事問題についての記事・報道を解説し、ディスカッションを行なう。本テキストはどちらかというと保守主義的な立場を講じているが、そうした見地の各章毎について各自自ら判断できるように充分相互討議を行なうこととしている。 学習成果をあげた方にはレポート提出も課題として適宜予定。			
【成績評価の方法】 出席状況と与えられた課題に対する発表内容、提出レポートの内容および期末筆記試験の成績等を総合的に評価して判定する。	【参考文献】			
【教科書】 佐藤光著『入門・日本の経済改革入門』 ￥657円+税。 PHP新書				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習	17	通 期	4 単位	藤 岡 純 一
【講義概要・学習目標】 ごみ（廃棄物）とは何だろうか？ 生ゴミやプラスチックのような毎週定期的に分けてゴミ収集車に持っていかけてもらう家庭のごみだけがごみだろうか？ これだけではない。二酸化炭素、放射性廃棄物、建設廃材などの産業廃棄物もごみである。 現在は、自動車から、原子力発電所から、工場から、そして家庭から、大量のごみが出ている。いわばごみの時代である。大量生産され、大量消費されたものが、ごみとして出ている。 これらのごみが、今や、地球を蝕んでいる。地球の温暖化、放射性廃棄物による放射能汚染の可能性、山中への廃棄物の不法投棄、川や海の汚染など、枚挙の暇がない。 君たちは、これからごみ問題とどのように付き合っていくのか？ 「ごみゼロ社会」は可能なのであろうか？ いっしょに考えてみよう。 ごみの経済学とはどのようなものだろう。	【講義計画】 演習なので、受講生に順番にテキストの内容を紹介してもらい、それに基づいて討論する。何よりも疑問を持つことから始めよう。 テキストの内容は以下の通り。 第1章 リサイクル社会からみた廃棄物処理事業 第2章 大量廃棄社会の構造 第3章 ごみ行政を考える 第4章 廃棄物処理料金の効率性と公平性 第5章 リサイクルの経済学 第6章 有害廃棄物問題を考える 第7章 リサイクル社会への課題と展望 2冊目のテキストは授業中に提示する。			
【成績評価の方法】 平常点（出席と報告）およびレポート	【参考文献】 寄本勝美『ごみとリサイクル』岩波新書			
【教科書】 植田和弘『廃棄物とリサイクルの経済学』有斐閣選書				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習	18	通 期	4 単位	前 田 治 郎
<p>[演習概要・学習目標] この演習では、各自が設定したテーマを一年間追い続けてもらいます。それを通じて、資料の探索、収集、整理、論点の報告・発表などの作業を体得することが、学習目標です。ちなみに、昨年度の参加者が取り上げたテーマには、クローン、地球温暖化、ダイオキシン、脳死と臓器移植、アメリカ経済、税制のあり方、いじめ、自動車文化、情報通信の発展、少年犯罪、高速道路の料金問題、世界貿易、日本の食糧問題などがありました。1年後に、自分の得意な分野で一言言いつつまでになっていれば、目標達成です。</p>	<p>[演習計画] 1. 各人のテーマ設定 2. 資料収集の研修—図書館、インターネット 3. 書籍、新聞記事その他を素材とする教室での報告と討論（反復） 4. 最後にレポートの作成</p>			
<p>[成績評価の方法] 出席などの平常評価と最後に作成するレポートを総合判断する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者		
基礎演習	19	通 期	4 単位	前 田 徹 生		
<p>[演習概要・学習目標] 基礎演習においては、大学で勉学するための基礎的な素養、討論、ノートの取り方、原稿の書き方、報告やレポートの書き方、文献検索・収集の仕方、専門書の読み方といったことを中心に進めていくこととする。また、できれば裁判所見学等の実習も可能であれば計画してみたいと思っている。</p>	<p>[演習計画]</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ①ゼミ・ガイダンス ②ディベート ③ディベート ④ディベート ⑤ディベート ⑥ディベート ⑦ノートの取り方 ⑧ノートの取り方 ⑨研究テーマの見つけ方 ⑩文献収集の方法 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ⑪文献探索ガイダンス ⑫原稿の書き方（1） ⑬原稿の書き方（2） ⑭原稿の書き方（3） ⑮本を読み ⑯本を読む ⑰本を読み取る ⑱本を読み取る ⑲レポートを書く ⑳レポートを書く </td> </tr> </table>				<ul style="list-style-type: none"> ①ゼミ・ガイダンス ②ディベート ③ディベート ④ディベート ⑤ディベート ⑥ディベート ⑦ノートの取り方 ⑧ノートの取り方 ⑨研究テーマの見つけ方 ⑩文献収集の方法 	<ul style="list-style-type: none"> ⑪文献探索ガイダンス ⑫原稿の書き方（1） ⑬原稿の書き方（2） ⑭原稿の書き方（3） ⑮本を読み ⑯本を読む ⑰本を読み取る ⑱本を読み取る ⑲レポートを書く ⑳レポートを書く
<ul style="list-style-type: none"> ①ゼミ・ガイダンス ②ディベート ③ディベート ④ディベート ⑤ディベート ⑥ディベート ⑦ノートの取り方 ⑧ノートの取り方 ⑨研究テーマの見つけ方 ⑩文献収集の方法 	<ul style="list-style-type: none"> ⑪文献探索ガイダンス ⑫原稿の書き方（1） ⑬原稿の書き方（2） ⑭原稿の書き方（3） ⑮本を読み ⑯本を読む ⑰本を読み取る ⑱本を読み取る ⑲レポートを書く ⑳レポートを書く 					
<p>[成績評価の方法] 出席を重視する。単位認定の最低基準として三分の二以上の出席。さらにゼミでの学習の評価を総合して判定する。</p>	<p>[参考文献] 演習の中で必要に応じて提示する。</p>					
<p>[教科書] なし</p>						

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習	20	通 期	4 単位	三 邊 信 夫
[演習概要・学習目標] 本講義では、経済学に関する基本的な考え方を説明する。経営学が個別企業を考察対象としているのに対して、経済学は財の価格や国民所得の決定、国民の生活水準など経済全体を問題としている。これらのことを興味深く説明するために、16世紀より18世紀を支配した重商主義や重農主義より、アダム・スミスにはじまる古典学派経済学、マルクス経済学を経て、限界効用学派および近代経済学に至る経済学の実証プロセスを中心に解説する。経済学の展開は、その研究対象である資本主義経済の発展にしたがって、それぞれの国の発展過程にしたがって精緻化されてきた。 現代的問題、例えば、国民生活水準の重視、規制緩和、所得分配率の問題、人口問題、福祉政策のあり方等々の問題も、実は、経済学の長い歴史のうちに議論を重ねてきた問題で、いまに始まったことではないことがわかる。われわれはこれらの議論を参考にして、自分の意見を決めたい。	[演習計画] <前期> 1) 重商主義。個人利益と国家利益。貴金属の蓄積。 2) 前古典派経済学。イギリスおよびフランスにおける経済学。 3) 重農主義。ケネーの「経済表」。 4) アダム・スミスの先駆者。価値と効用、平等主義批判、正貨流出入機構。 <後期> 5) アダム・スミス「国富論」。見えざる手と自由放任論、生産的労働。 6) R. マルサスの「人口論」。人口と食糧、現代の人口問題。 7) D. リカード「経済学原理」、労働価値説、資本蓄積と利潤率低下、比較生産費説。 8) セイの販路説。 9) アメリカにおける古典派経済学 10) カール・ポルックス「貨幣論」 11) オーストリー学派の「限界効用」			
[成績評価の方法] 出席、試験、レポート	[参考文献]			
[教科書] 三邊信夫 (著) 『経済学説史概論』(大阪市立大学経済学会)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習	21	通 期	4 単位	モグベル ザファル
[演習概要・学習目標] テーマ: アジア経済について考える アジア経済に何か起こったのだろうか? この疑問に答えるべく、東アジア諸国を中心に、1997年の通貨危機とそれ以前のアジアの「高度成長と繁栄の時代」について考えて見ることとする。 世界で最も有望見されていたアジア経済の突然の挫折、アジアの夢を壊したのは誰か? それとも繁栄は単なる幻想だったのか? 一体何がアジアの「明」とその後の「暗」を分けたのだろうか? 本ゼミナールの目標は: ① 目を「東」に向けてアジア諸国に親しみを持つこと、 ② 経済の基礎知識を深めること、 ③ 経済開発のプロセスについて考えること、 ④ 経済のグローバル化と相互依存について実感を持つこと、などとなります。	[演習計画] <前期> アジア経済総論: ① 地域特性 ② 文化・教育・人口 ③ 経済成長の基礎的条件 ④ 輸入代替から輸出志向型工業化戦略への転換 ⑤ 東アジアの奇跡 ⑥ 東アジアの「バブル経済」 ⑦ 通貨・経済危機と東アジアの限界 ⑧ アジアの復活に向けて <後期> アジア経済各論: 後期はゼミナール参加者の報告を中心に授業を行う。各人、アジア諸国の中から一つの国を選び、その経済・社会・政治などについて報告をする。			
[成績評価の方法] 出席・小試験・授業中の報告をベースに総合的に評価する。	[参考文献] 渡辺利夫、足立文彦、文大字 (著) 『図説アジア経済』			
[教科書] 渡辺 利夫 (編) 『アジア経済読本』(第二版)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習	22	通期	4単位	矢根 真二
<p>[演習概要・学習目標] 多人数の講義では片方向の知識の吸収力が問われるのに対し、少人数の演習ではたんに受動的に知識を吸収するだけでなく、むしろ自らの意見や質問を發して他人の情報収集過程に貢献する能力の養成こそ主目標となります。ですから、日頃から多様な問題に関心を抱き、自らの意見をまとめる習慣を身につけておき、それを演習の場で積極的に発言していくという姿勢が不可欠です。こうした能力は、専門演習に進むための必要条件であるだけでなく、卒業後のいかなる集団的な意思決定過程の中でも大切な能力です。</p> <p>そこで、本演習の第1目標は、一般的なトピックスに関するディベート・ゲームなどを通じて、提案・質疑・反論・応答といった一連のプレゼンテーション技術を高めることです。第2の目標は、将来の専門演習に備えて、新聞や雑誌、経済学の入門レベルの文献を題材とした個人報告の技術を高めることです。専門的な文献に進むためには、経済学基礎理論A（Bではない）などで学習する経済分析の道具になじみ、簡単な数式モデル等にもアレルギーを感じなくなるようにしておくことが大切です。</p> <p>いずれにせよ、過去にとらわれず、新しい自分を築いていくようなチャレンジ精神を持って取り組んで下さい。</p>	<p>[演習計画] (1) 情報処理技術の復習 プレゼンの基礎としての文書の読み方からPCの使い方等の復習。 (2) M型ディベート・ゲーム テーマを決め、賛成派と反対派に別れて意見交換の練習を行う。 (3) ニュース・レポート 興味のある新聞記事・社説を解説する練習を行う。 (4) リーディングス 経済学の入門書を輪読する。レポーターは用意したレジュメをもとに解説し、フロアーは質疑を發することによって、理解を深める。 (5) ライティング800 就職時の小論文・作文のように、800字程度で自分の考えを明確に表現できるように練習する。 (6) その他 時間に余裕があれば、専門知識を深めるために経済分析の考え方や諸道具の学習を行う。</p>			
<p>[成績評価の方法] 各メニューにおける報告や質疑への貢献度を総合して評価します。</p>	<p>[参考文献] ・マーチン『スタディガイド：スティグリッツ入門経済学』東洋経済新報社 ・ベッカー『ベッカー教授の経済学ではこう考える～教育・結婚から税金・通貨問題まで』東洋経済新報社</p>			
<p>[教科書] ・スティグリッツ『入門経済学』東洋経済新報社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習	23	通期	4単位	吉見 研次
<p>[講義概要・学習目標] この演習は、主に受講生が分担して下記テキストの紹介報告を行うという方式で運営される。内容的には、株式会社の基本的な仕組みを理解したうえで、現代日本の巨大株式会社の構造と問題点を把握することが、主たる学習目標となる。</p> <p>演習形式の授業においては、口頭発表等、学生諸君自身の能動的な授業参加が不可欠である。小論文やレポートを書く作業も課すので、積極的に取り組んでほしい。</p>	<p>[講義計画] 毎回、数名の学生にテキストの内容を順次紹介報告してもらう。小論文の書き方を指導したうえで、実際に書く作業をしてもらうこともある。夏休み中または秋以降の課題として、複数の文献資料を読んだうえでレポートを書いてもらうこととしたい。後期の途中から、毎回、数名の学生に各自のレポートの概要を口頭で発表してもらう予定である。余裕があれば討論の時間等も設けたいと考えている。</p>			
<p>[成績評価の方法] 出席状況、報告やレポートの内容等を総合的に判断して評価する。</p>	<p>[参考文献] 授業時間中に適宜紹介する。</p>			
<p>[教科書] 奥村 宏『株とは何か（改訂版）』（朝日文庫)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学基礎理論A (旧経済学基礎講義)	01	通期	4単位	荒木英一
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>いくつかのテーマをとりあげて、経済学の専門用語と基本的な考え方を学習していく。テキストにはいくぶん高度な内容も含まれるが、経済白書や日々の経済記事を理解する為には、この種の入門書をマスターしておくことが近道だろう。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>前期： 国民所得統計 GNPの決定 資産市場 IS/LMモデル</p> <p>後期： オープン・エコノミー 失業とインフレーション 消費・貯蓄と投資 景気循環と経済成長</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>授業中の小テストと出席点、学年末試験で総合評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>適宜に指定する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>『(現代経済学入門) マクロ経済学』吉川洋 著、岩波書店</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学基礎理論A (旧経済学基礎講義)	02	通 期	4 単位	柴田 淳
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>ミクロ経済学、マクロ経済学の基礎的概念を解説します。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>開講時に説明します。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学期中に課題を出題しその提出状況で評価します。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>奥野正寛「ミクロ経済学入門(第2版)」(日経文庫) 伊藤元重「ミクロ経済学」(日本評論社) 中谷巖 「マクロ経済学入門(第3版)」(日本評論社) 福田慎一・照山博司「マクロ経済学入門」(有斐閣)</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特に用いません。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学基礎理論 A (旧経済学基礎講義)	03	通 期	4 単位	宮 永 輝
[講義概要・学習目標] 経済現象を解明するための理論的アプローチとして、大きく分けて二つの枠組みがある。一つは経済を構成する個々の単位(消費者や企業などの経済主体の行動に焦点を当ててその意志決定の過程を明らかにしたり、舞台となる市場での価格決定のシステムを分析するミクロ経済学である。一方、経済全体、たとえば一国全体といった単位での動きを調べ、集計された変数の関係や決定のしくみを分析するのがマクロ経済学である。 本講義では、現実の経済を理解するために必要不可欠な、この二つの経済理論の基礎を解説し、今後他の経済学を学ぶ上で有益となる”道具”を身につけてまた経済学的なものの方見方・考え方を習得することを目指す。	[講義計画] 講義は以下のような構成で行う予定である。 第一部 経済学の基本的諸概念 1. 近代経済学の考え方 モデル分析の意味 2. 経済学の用語 市場、価格、限界等の概念について 第二部 ミクロ経済学の基礎 3. ミクロ経済学とは 資源配分問題、完全競争市場の概念について 4. 需要・供給と価格 需要曲線・供給曲線 5. 需要と効用 効用曲線、無差別曲線 6. 効用最大化行動 予算制約線・無差別曲線と効用最大化 7. 所得変化と需要 所得消費曲線、上級財と下級財 8. 価格変化と需要 価格消費曲線、代替材と補完財 9. 所得効果と代替効果 所得効果、代替効果 10. 企業行動と生産関数 生産関数、等産出量曲線 11. 利潤最大化行動 平均費用・限界費用と利潤最大化 12. 短期費用分析 固定費用・可変費用 13. 市場均衡と最適配分 部分均衡分析 第三部 マクロ経済学の基礎 14. マクロ経済学とは フローとストック、名目と実質 15. 有効需要の原理 ケインズ経済学、マネタリストの経済学 16. GNPと三面等価の原理 最終生産物、付加価値 17. 国民所得の諸概念 固定資本減耗等の概念について 18. 経済循環 家計と企業、生産要素市場、生産物市場 19. 国民所得決定・基礎理論 可処分所得、消費関数、貯蓄関数 20. 政府部門を含まないモデル 需要の波及プロセス、乗数 21. 国民所得の計算(演習:数値例) 22. 政府部門を含むモデル 政府支出、完全雇用所得水準 23. 総需要管理政策 均衡予算乗数の定理、政府支出乗数			
[成績評価の方法] 成績は前期・後期試験が各30%の計60% 授業内レポート(不定期:4回程度を予定)で40%とする。				
[教科書・参考書] 教科書:未定 参考書:水野正一・河合直孝・竹内信仁編著『現代経済学』中央経済社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学基礎理論 A (旧経済学基礎講義)	04	通 期	4 単位	矢 根 真 二
[講義概要・学習目標] 経済活動はきわめて身近な現象です。自動販売機でウーロン茶を買うといった行為も、経済学の分析対象です。ウーロン茶の満足感が投入したコインの費用を上回るの、買っちゃおうというわけです。本学に入学したのも講義をさぼるのも、デートに出かけるのもアルバイトに精を出すのも、同じように分析できます。 講義の基本的な目標は、現実の複雑で多様な現象を簡単な1つの見方で捉えていこうとする現代経済学の基本的な考え方を修得することです。実際、この抽象的な考え方を自在に操れるようになれば、参考文献に掲げたノーベル賞経済学者ベッカー教授をはじめ、魚釣りや携帯料金から犯罪や環境問題までやさしく分析した多くの事例をスイスイ理解できるようになるでしょう。また、パースタインの物語に出てくるように、保険や年金から株式先物やデリバティブといった商品がいかにこの考え方と関連しているかもわかるでしょう。 ただ、1つの見方でウーロン茶の販売量から株式のポートフォリオまで予測するわけですから、この抽象的な見方は数字を使ったモデルという形で表現されるのが普通です。もはや文系に数学は不要というのは時代遅れの考え方なのです。 こうした分析道具はすべて講義で解説しますが、抽象的な考え方が苦手な人や数学アレルギーの方は参考文献などで頭を柔軟にしておいて下さい。新しい考え方を身につけてやろうという積極的な受講者を歓迎します。	[講義計画] ・大きな書店に行けば分かるように、現代の経済理論はミクロ経済学(経済原論 I A-1)とマクロ経済学(経済原論 I A-2)に分けられ、公務員などの各種試験の中心試験項目になっています。講義では、このミクロ経済学とマクロ経済学の基礎となる「選択」の考え方にスポットを当てて、様々な面から解説していく予定です。 ・紙面の関係上、最初のトピックと項目だけを記しておきます。 ★選択の科学としての経済学～身近で遠い経済学 ☆経済学の分析対象～身近な経済現象 公理; 人生は無数の選択の帰結である 希少性と機会費用 財・サービスと経済活動 多様な分析対象 ☆経済分析の方法～苦手な数学モデル 科学としての特徴～仮定・モデル・予測 選択の科学～費用便益モデル 分析の道具箱～増加関数と導関数 デートモデル～インセンティブと効率性 生産と消費のモデル1～具体的な関数と解法			
[成績評価の方法] 試験の合計点が6割以上を合格とする予定。				
[教科書] ・必要なら追って支持する。 ・講義時間にプリントを配布する予定。				[参考文献] ●学習する主要な概念のやさしい入門書としては ・スティグリッツ『入門経済学』東洋経済新報社 ●結婚や教育といった身近な事例を分析した最近のコラム集として ・ベッカー『ベッカー教授の経済学ではこう考える～教育・結婚から税金通貨問題まで』東洋経済新報社 ●古代から今日のデリバティブに関わる意思決定法の読みやすい物語として ・パースタイン『リスク』日本経済新聞社 ●数学が苦手だったりアレルギーのある方へのやさしい入門書として ・ドウリン『例題で学ぶ:入門・経済数学』シーエービー出版

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学基礎理論 B (旧経済学基礎講義)	01	通 期	4 単位	上野 勝男
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>日本経済が大きな不況にあえいでいるときに、諸君は経済学を学びはじめるわけです。科学技術がこれだけ発展した現代に、多種多様な商品があふれかえっているのに、なぜ倒産や破産、失業が生じ、個人の生活は荒波にもまれる小さな木の葉のように浮沈にさらされるのだろうか。不況のない、失業のない、安心して暮らせる経済はどうしたら可能か。こうした切実な問題に対する答えを求めようとして入学したことでしょう。しかし、学問には「サルでもわかる」とか、「玄関あけたら」すぐ食べられるご飯のような安直な解答はありません。もしそれがあれば、そもそも経済に問題もなく、諸君も苦勞して大学へ行く必要もないでしょう。経済の様々な問題・矛盾を解明することは、山登りと似ています。経済の構造全体と変化の行方を一望のもとにとらえるためには、山でいえば頂上の峰をきわめなければなりません。このためには、ふもとから一步一步着実に登っていかねばなりません。ふもとからの着実なあゆみは経済学でいえば、私たちの生きる資本主義のもっとも基礎的な仕組みを、もっとも基礎的で重要な概念をしっかりと理解し、身につけることです。この講義は「ふもと」からの一歩のためのものです。基礎的な概念についての解説を中心にしますが、どこを登っているのかわからなくならないために、現代経済のトピックスも随時とりあげていく予定です。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>教科書(テキスト)にそってすすめます。同時に、しばしば補足のためのプリントも配布しますので要注意です。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>山登りは、少しづらくまた退屈かもしれないが、一步一步登るというプロセスが大事で楽しいものなのです。だから、講義への出席を重視します。そして、もちろん試験をします。だから成績は、出席と試験の総合評価とします。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>川上則道 著「『資本論』の教室ーきっちりわかる経済学の基礎ー」(新日本出版社)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学基礎理論 B (旧経済学基礎講義)	02	通 期	4 単位	大 澤 健
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>私たちが現在暮らしている社会は「市場経済」とか「資本主義社会」と言われています。そんな中で、私たちは「商品」、「貨幣」、「資本」という言葉を日常よく耳にし、日常的な用語として使っていますが、その言葉の意味を改めて説明してみると言われると結構難しいものです。まして、それらが相互にどのように関係しあい、どのように運動するのかがとなるとますます難しい問題になります。この講義では、このような基本的な経済学用語の意味を改めて考えながら、現在の経済社会の基本的なメカニズムと、特徴を明らかにしていきたいと考えています。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>【前期】 1・商品ー市場の意味、市場経済の特徴 2・貨幣ー市場をつなぐ媒介者 貨幣の機能、通貨システム</p> <p>【後期】 3・資本ー資本とは何か 生産過程と資本主義 資本主義社会の諸特徴</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>原則として試験の点数によるが、いくつかの加点要素(レポート等)を設ける。詳しい内容については、講義の初回に説明する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>カール・マルクス著『資本論』(新日本出版社)</p>			
<p>[教科書]</p> <p>田中菊次、他(著)『現在の経済原論』(創風社)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
一般経済史		通 期	4 単位	前 田 治 郎
<p>[講義概要・学習目標] 資本主義の発展とともに、人間の生産力は巨大な進歩を遂げ、我々はその成果を享受している。しかし他面では、環境問題や核兵器など人間の存続に関わる諸問題を抱え、また、生活不安や飢餓、諸国家間の対立など千年王国にはほど遠い状況にある。考えてみれば、資本主義の発展はせいぜいここ数百年の事柄であり、人類の長い歴史からすればほんの一こまに過ぎない。本講義では、人間の経済生活の発展を、資本主義も含む長期的視野で捉えることを通じて、現在の到達点「資本主義」を考えてみたい。</p>		<p>[講義計画] 前期—以下のそれぞれの視点から経済史を考える ・生産力の発展 ・経済システム ・国家 ・経済史の理論 後期—資本主義発展の基礎概念 ・絶対主義と市民革命 ・産業革命 ・先進国と後進国 ・資本主義の世界体制 ・独占資本主義と帝国主義 ・国際通貨体制 ・大恐慌 ・社会主義</p>		
<p>[成績評価の方法] 後期試験と授業中数回行う小テスト</p>		[参考文献]		
<p>[教科書] 長岡新吉、石坂昭雄編著『一般経済史』、ミネルヴァ書房</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学のための数学入門		通 期	4 単位	安 藤 洋 美
<p>[講義概要・学習目標] 19世紀の偉大な物理学者ギブスは「数学もまた言語なり」と述べた。この言葉は20世紀の経済学者サミュエルソンが、その著『経済分析の基礎』の巻頭に書き付けた。このことから分かるように、数学は書き言葉だけの一種の言語である。だから、どんな科学でも、それが取り扱う研究対象を精密に表現しようとするとき、日常言語もさることながら、数学言語の方が便利ことが多い。この広義では、経済学の学習でよく用いられる数学的手法のうち、極めて基本的なものを中心に紹介したい。内容は主として微積分と線形代数に関するものになる。出席常ならざれば、すぐさま理解の範疇外に落ちることは明白である。テキストにある練習問題も自学自習して理解を深めて貰いたい。</p>		<p>[講義計画] ＜前期＞（微積分）微分の基礎、関数の極大・極小、初等関数の微分、偏微分とその応用、不定積分、定積分の応用、簡単な微分方程式。 ＜後期＞（線形代数）ベクトルと行列、1次変換の表現、行列式、逆行列と連立方程式、行列の階数と次元、固有値と固有ベクトル、産業連関分析、線形計画法。</p>		
<p>[成績評価の方法] 期末試験による。</p>		[参考文献]		
<p>[教科書] 矢野健太郎・田代嘉弘『社会科学者のための基礎数学』（裳華房）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学		通 期	4 単位	清 水 夏 樹
〔講義概要・学習目標〕 社会学は近代社会科学の中でもっとも新しい部類に属する。その分だけ難しく未熟な部分も多。けれど近年「社会学的」はその見方が注目されているのも事実。このような視座と展望をめぐらさず、日常的なトピックスにも配慮しつつ現代社会が直面する課題を問うてみたい。 社会の問題領域にきりこむための分析力と把握力を養うつもりで受講に臨んでほしい		〔講義計画〕 前期 基礎概念—社会的行為、期待と役割、相互行動、家族、社会的自我形成、集団と組織、共同体、文化と行動様式、学史的背景—テュルケム、ジムメル、ウェーバー、アメリカ社会学 中・後期—近代市民社会、中産階層、大衆社会、社会的分業、アトニー、宗教と社会との相互動態、社会構造とシステム、社会変動と日本近代化の特異性、経済社会の成長と成熟、渾沌、集団、学史的背景—マートン、ゴウマン、ボードリヤル 最終段階 情報化社会とネットワーク、ゲームの相互性と象徴性、社会的機能、消費社会の固定義の試み		
〔成績評価の方法〕 随時、簡易レポートを課し、その成果を加味し、学年末テストを最終評価対象とする。		〔参考文献〕 「パンドックスの社会学」(君塚、宮本、森下著) 新曜社		
〔教科書〕 「社会学のあゆみ」(大村、室月、中野ほか著) 有斐閣				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学		通 期	4 単位	亀 田 速 穂
〔講義概要・学習目標〕 この科目は、現代の経済社会の中で重要な役割を担っている企業という組織の行動を体系的に説明しようとする学問である。企業の行動に影響を及ぼす要因には、大別して、経営者の方針や戦略、仕事を遂行する仕組みとしての組織構造のあり方、組織メンバーの動機づけ(やる気)といった企業の内部組織要因と、産業の競争構造、技術水準、人口統計、法規制などの外部環境要因とがある。企業は外部環境要因からの影響を制約として(また働きかけの対象として)受け止めつつも、かなりの自由裁量をもってみずからの行動を決めている。この授業では、現代の経済社会の中の1つの制度としての企業の構造とその運営についての基礎的な知識や考え方を身につけることを目的とする。		〔講義計画〕 1. 経営学の生成と展開 2. 現代経営者の役割と課題 3. 経営管理の発展と体系 4. 経営環境と経営戦略 5. 職能分化と組織構造 6. 組織成員と動機づけ 7. 環境変化と組織変革 8. 日本の経営の展望		
〔成績評価の方法〕 前期はレポート、後期は試験を課し、両者を総合して成績を評価する。したがって、後期の試験だけでは単位の取得は困難である。なお、出欠状況を成績に加味することがある。		〔参考文献〕 講義中に適宜指示する。		
〔教科書〕 伊藤淳巳・西門正巳・亀田速穂『現代経営学の生成発展』白桃書房				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
法学	01	通期	4単位	寺田 友子
<p>[講義概要・学習目標] 学習目標 刑事手続を素材に日本国憲法の人権保障について理解を深める。 講義概要 日本国憲法は、明治憲法下の人権侵害を反省して詳細な人権保障条項を規定した。日本国憲法制定史をも踏まえて、国家の国民に対する権力行使である刑罰権の発動にかかわる罪刑法定主義を理解する。その前提として、刑罰の意義及び種類並びに犯罪成立要件についての基礎的知識をも体得する。それまでの基本的知識を整理し、理解を深めるために安楽死判決を素材にする。その判決を学ぶ過程で、法源の機能、法の適用過程等について理解する。 次に、日本国憲法の最高法規性を学んだ上で、死刑の合憲判決、尊属殺人罪違憲判決を詳細に検討する。その過程で家族法に関する基本的概念を学ぶ。又平等原則についても理解を得たうえで、非嫡出子の相続分規定の合憲判決も検討する。その過程で違憲法令審査制度の機能について理解する。 その上で、法源の種類（憲法の意義、条約、法律、命令、条例、最高裁判所規則、議院規則）、形式的効力等法の効力等についても憲法訴訟（砂川事件、奈良県ため池条例事件、徳島県公安条例事件、NHK放送公布事件、官報公布事件等々）を素材に理解を深める。その際、三権分立等国家の機構についても理解する。これらの憲法訴訟判決を学ぶ過程で、人権保障の内容（刑事補償と国家賠償）と憲法の最高法規性、違憲法令審査制度についても理解を深める。</p>	<p>[講義計画] 前期 §1 刑罰の種類 2 犯罪成立要件 3 法の適用過程 4 安楽死訴訟 5 憲法の最高法規性と違憲法令審査制度 6 死刑の合憲判決 7 尊属殺人罪と家族法の基礎概念 8 平等原則と尊属殺人罪違憲判決 後期 9 法治国家と罪刑法定主義 10 命令概念と行政機構 11 全農林警職法事件と労働基本権 12 条例概念と大阪市売春防止条例 13 奈良県ため池条例事件と徳島条例事件 14 形式的効力の原則と条約の概念 15 法の時間的効力と公布をめぐる諸般決 16 同位の法問の効力関係と国家補償 17 損害賠償における特別法と一般法</p>			
<p>[成績評価の方法] 基本的には、前期及び後期に行うテストで成績評価を行うが、レポート提出、出席、授業時間に行うテスト等評価に加味する場合がある。</p>	<p>[参考文献] 中谷実編『ハイブリッド憲法』1995年 勁草書房 渡辺洋三著『法とは何か』岩波書店 渡辺洋三著『法を学ぶ』岩波書店</p>			
<p>[教科書] 芦部信喜他11名編『コンパクト六法 平成11年版』（岩波書店）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
法学	02	通期	4単位	前田 徹生
<p>[講義概要・学習目標] A君は信仰上の理由から学校での剣道の授業参加を拒否し、その代わりにレポートを提出しようとしたが、学校側が受け取りを拒否したため単位が取れず、退学処分となってしまった。A君は退学処分の取り消しを求めて訴えた。A君と学校側のどちらに“理”があると言えるだろうか？ 裁判官になった君はじっくりと両者の言い分を聞いて、まず事実が何であったかを明らかにするだろう。その上で、どちらに言い分があるか正義（法）の立場から裁断を下すことになる。ところで正義とは何か、「それは社会の善良な人々がフェアと信ずるところのもの」（デニング卿）である。われわれを取り巻く身の回りの問題の中にも大小さまざまな紛争が存在している。法的思考を訓練することは、こうした対立する諸利益や価値とを比較衡量し、法に則りながら一定の結論を導き出す論理的思考能力を養うことにある。</p>	<p>[講義計画] 1. 法とは何か (1)社会生活と法 (2)法と道徳 (3)法と強制 (4)法の目的 (5)権利と義務 2. 法の適用 (1)法と裁判 (2)裁判の基準となるもの (3)法の解釈 3. 憲法と行政法</p>	<p>(1)基本的人権 (2)国民主権と平和主義 (3)統治の組織 (4)地方自治 (5)行政主体と行政組織 (6)行政行為・行政強制 (7)行政手続 4. 民法 (1)民法の意義・適用 (2)財産法 (3)家族法</p>		
<p>[成績評価の方法] 前期、後期の二度の試験を総合して評価する。</p>	<p>[参考文献] 講義の中で紹介する。</p>			
<p>[教科書] 伊藤正己編『法学』（第二版）有信堂</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会科学入門		通 期	4 単位	大 澤 健
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>「社会科学」と言われても少しとっつきにくいかもしれませんが、要するに社会の中の様々な問題について考え、それを学問としてまとめたものが社旗科学です。</p> <p>それゆえ、「社会科学」は「社会問題」の存在と密接に結びついています。そして、われわれが現在暮らしている社会は市場経済ですから、社会問題の多くは市場経済の問題として考えることができます。</p> <p>この講義では、「社会科学」の入り口として様々な「社会問題」に触れてもらいたいと考えています。まずはビデオを見ながら問題の存在を知り、それがなぜ生じるのか、そして、どうしたら解決できるのか、を考えながら「社会科学」としてのものの考え方について知ってもらおうと思っています。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>講義の大半は実際にビデオを見てもらって、考えてもらうことに向けられます。その間に問題へアプローチしていくための考え方を講義していきます。</p> <p>【前期】 1・公害問題、環境問題 2・労働問題 3・市場経済のパワー 社会を「進歩」させるものとしての市場経済</p> <p>【後期】 4・不況の発生、失業問題 5・戦争 6・商品経済と「国家」の役割 7・国家と民族問題</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>原則として試験の点数による。ただし、ビデオを見てもらった後に簡単なレポート（感想文）を提出してもらい、それを「加点」要素として評価します。まめにレポートを出しても良いですし、試験で勝負してもかまいません。</p>		[参考文献]		講義の中で適宜指示する。
<p>[教科書]</p> <p>用いない。なるべくならば、講義にまめに出てノートを充実させることを心がけてほしい。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本近代史		通 期	4 単位	尾崎耕司
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>日本近代史を、当時の官僚・政治家であった後藤新平の足取りを軸に、都市政策、植民地政策といった観点からとらえなおす。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>講義は、おおむね以下のような項目をたてて進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 明治期の都市問題。 2. 衛生官僚としての後藤新平の思想と行動。 3. 台湾民政長官としての後藤の植民地政策。 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席およびレポート。</p>		[参考文献]		鶴見祐輔『後藤新平』全4巻（頸草書房）など。
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論 I A - 1 (ミクロ経済学)	01	通 期	4 単位	駿河 輝和
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>現代経済における市場の果たす役割を理解することと、現実経済分析に必要な価格理論の考え方を習得することを目的としている。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>需要と供給、消費者行動、生産者行動、競争市場と効率性、独占寡占、市場の失敗など市場の働きについて講義する。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>2回の試験</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>倉澤資成著『入門価格理論 第2版』日本評論社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論 I A - 1 (ミクロ経済学)	02	通 期	4 単位	竹 歳 一 紀
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>ミクロ経済学の基礎理論について講義する。①家計（消費者）、企業（生産者）といった経済主体の行動がどのようにモデル化されるか、②それら経済主体の消費や生産が、市場価格を通じてどのように決定されるか、③消費や生産が市場での価格メカニズムを通じて決定されることがなぜ望ましいといえるのか、といったミクロ経済学の基本を理解することが目標である。</p> <p>ミクロ経済学の進んだ学習には数学的知識が必要となるが、本講義では数式の使用は極力避け、主に図を用いて説明する。なお、ミクロ経済学の学習は基礎からの積み上げになるので、講義に出席し、内容を確実にフォローしていくことが望まれる。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ミクロ経済学の基本概念 2. 需要と供給 3. 消費者行動の理論 <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 生産者行動の理論 5. 市場均衡と経済厚生 6. 独占の理論 7. 生産要素市場 8. 不確実性と情報 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期試験、学年末試験の成績による</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>西村和雄（著）『ミクロ経済学』（岩波書店）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論 I A-1 (ミクロ経済学)	03	通 期	4 単位	三 邊 信 夫
[講義概要・学習目標] 本講義の目的は資本主義経済に特有な自由競争市場の基本的構造を解説することである。その基本となるのは「均衡」概念であるが、均衡は需要と供給の一致によって決まる。資本主義経済は種々な市場より形成されている。消費財を取扱う財貨市場、労働雇用を取扱う労働市場、投資水準を決める投資財市場、利率を決定する貨幣市場、外国為替市場、さらには貯蓄、投資の均衡を問題とする国内均衡と輸出入額均衡を問題とする国際均衡等々、およびこれら種々な市場の相互関連について授業の中で説明する。すべての市場において、均衡は需要と供給の一致によって決まるといのが大原則である。しかし各市場によって、それに参加する個人または企業は異なる目標をもち、その動機も異なる。この講義では、これら各市場の需要曲線と供給曲線が如何にして決定されるかを中心に説明し、これら各市場の相互関係について解説する。	[講義計画] <前期> 1. 財貨市場の均衡、効用関数と生産関数、部分均衡と一般均衡分析における需要関数と供給関数 2. 経済用語の概念規定、主要費用、利潤、消費、投資、所得 3. 総需要曲線と総供給曲線、雇用と国民所得 4. 国内均衡と国際均衡 <後期> 5. 効用関数と貯蓄 6. 投資財市場の均衡 7. 貨幣市場の均衡 8. 外国為替市場の均衡			
[成績評価の方法] 出席、試験、レポート	[参考文献]			
[教科書] 三邊信夫(著)『経済原論』(大阪市立大学経済学会)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論 I A-2 (マクロ経済学)	01	通 期	4 単位	伊代田 光 彦
[講義概要・学習目標] 近代経済学の立場からマクロ経済学の講義を行う。 経済成長というのはどういうことなのだろうか。国全体の所得はどのようにして決定されるのだろうか。失業はなぜ生じるのだろうか。景気変動はなぜ起こるのだろうか。内外価格差はなぜ存在するのだろうか。このような問題に答えるためには、経済全体の仕組みを明らかにし、解決の処方箋を与えることのできる理論が必要となる。このための基礎理論がマクロ経済学である。従ってマクロ経済理論というのは、いわば経済全体の大きな眺めを扱う経済理論の分野である。 もう少し具体的な内容は講義計画の中に列挙されている。講義においては、理論をできるだけ現実の問題に関連づけ、具体例を上げながらゆっくり進めていくつもりである。	[講義計画] 序論 1~4章 1 経済学とは何か 2 経済学の体系と接近法 3 経済学の系譜 4 経済秩序の基本的特徴 本論 1~8章(各章2~3回) 1 国民所得の概念 2 国民所得の決定とその応用 3 貨幣分析 4 国民所得の変動と総需要管理政策 5 物価変動 6 所得分配 7 国際貿易 8 マクロ経済学の展開			
[成績評価の方法] 原則として年度末試験によって行う。	[参考文献] サムエルソン(著)『経済学(第13版上)』(岩波書店、1992年)			
[教科書] 稲別正晴・伊代田光彦・植田政孝(共著)『新版現代経済学の基礎(全訂)』(法律文化社、1998年)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論 IA-2 (マクロ経済学)	02	通期	4 単位	森 誠
<p>[講義概要・学習目標] 近代経済学のマクロ経済学を講義します。 まず、新聞等でよく目にする国民所得統計を紹介します。この国民所得統計自体は恒等式といった会計的性質を持っていますが、経済学としては何が原因で失業が生じているのか、という因果関係を表す決定式を考えることが重要です。そこで、雇用量、GDPの決定についてのマクロ経済学を学習します。中心となるのは、ケインズ流のマクロ経済学の標準的解釈ですが、適宜、新古典派流のマクロ経済学等も紹介したいと思っています。 近代経済学では多少の数学が使われていますが、それらについても講義で簡単に解説しますので、前もって数学を知らなくとも理解はできると思います。そして、慣れるために、また、曖昧さを排除するためには毎回練習問題を解きます。まじめに勉強すれば最初はチンプンカンプンでも1年後にはずいぶん慣れているはずです。 講義では教科書の森担当の章を参考にします。この章はかなり進んだ内容も含んでいますが、講義では初歩から解説します。そして最終的には3節までの内容を理解することを目的とします。</p>	<p>[講義計画] 1、GDPと3面等価の原則 2、実質と名目 3、ISバランサー・日米貿易摩擦と貯蓄 4、GDP決定論の基礎 5、均衡予算定理 6、IS曲線 7、LM曲線 8、財政政策と金融政策の効果 9、諸問題</p>			
<p>[成績評価の方法] 年度末試験</p>	<p>[参考文献] ・吉川洋『マクロ経済学』岩波 ケインズ派の立場によるマクロ経済学 ・浜田・安井『マクロ経済学の基礎』有斐閣 問題形式(命題に対する解説)をとっているのがポイントを押さえる、あるいは、公務員試験対策には向いています。 ・瀬岡吉彦『資本主義経済の理論』ミネルヴァ 新古典派、ケインズ派の問題点の指摘とそれに対する著者の考えが展開されています。通説に疑問を感じたとき見てみるとよいでしょう。ただし難しい本です。 その他、公務員試験等を目指している人は、講義を聴くだけでは十分ではありません。簡単な問題集を入手して各自で解く必要があります。</p>			
<p>[教科書] 惣宇利紀男、服部容教編『21世紀日本の経済政策』日本評論社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論 IA-2 (マクロ経済学)	03	通期	4 単位	矢根 真二
<p>[講義概要・学習目標] 不況になると失業者が増え、減税や公共投資の必要性が叫ばれます。反対に、景気が良くなるにつれインフレや輸入の増加が起こったり、公定歩合の引き上げが囁かれます。なぜこんなことが起きるのかを解明し、適切な政策を探るのがマクロ経済学の目的です。 そもそも現代経済の見方は、経済学基礎理論A(Bのマルクス経済学ではない)で学習したように、ミクロ経済学とマクロ経済学に分けられますが、双方共にその内容に関するグローバルスタンダードがあります。つまり、日本だけでなく欧米の新聞・雑誌の経済記事や白書などを理解するのに必要不可欠な知識となっているのです。公務員試験等の各種試験で、その基本的な概念や数値分析が出題されるのもそのためです。 そこで講義の主目標は、景気や金融・財政政策に関わる専門科目を履修するのに必要不可欠なマクロ経済学の基礎知識を提供することです。具体的な学習レベルは、テキストの例題や練習問題レベルの基本概念や数値分析を解けるようになること共に、新聞・雑誌の基本的な景気関連記事を理解できるようになることです。ですから、単位取得のためには、用語や概念を丸暗記するよりも、例題や練習問題を自分で解いてその考え方を身につけることの方が大切になるでしょう。</p>	<p>[講義計画] Part 1 マクロ経済学の基礎～経済学基礎理論Aのレビュー (1)マクロ経済学の対象～集計された5つの市場 (2)集計された労働市場・総供給・物価 (3)国民経済計算～3面等価と物価 Part 2 消費と貯蓄 (1)ケインズ型消費関数 (2)恒常所得仮説とライフサイクル仮説 Part 3 45度線モデル～部分均衡分析 (1)単純なモデルと乗数効果 (2)租税関数と輸入関数の導入 Part 4 IS-LMモデル～一般均衡分析 (1)一般均衡分析とワルラス法則 (2)投資関数とIS曲線～投資の限界効率(生産物市場の均衡) (3)貨幣市場とLM曲線～マネーサプライと投機(貨幣市場の均衡) (4)均衡国民所得と利子率～金融財政政策の基本 Part 5 現代マクロ経済学のトピックス (1)物価と失業・(2)国際マクロ経済学・(3)経済成長と景気変動</p>			
<p>[成績評価の方法] 試験の合計点が6割以上を合格とする予定。試験後に解答例とスコアを各自に提示し、クレームの受付期間を設ける予定。</p>	<p>[参考文献] ●講義の数値分析で使われる数学は、中学校で学習した「2本の直線の交点を求める」という簡単な連立方程式の解とグラフに関する知識が中心です。それでも、記号や数式アレルギーが強かったり、基礎理論Aでの予備知識がなくて不安な場合には、図書館等で下記の第1・2章の該当部分を学習して下さい。 ・ドウリング『例題で学ぶ：入門・経済数学 [上]』シーエービー出版 ●内容はほぼ同じですが、より詳細で読みやすいアメリカのテキストとして ・スティグリッツ『マクロ経済学』東洋経済新報社 ・マンキュー『マクロ経済学』東洋経済新報社</p>			
<p>[教科書] ・辻正次・他『演習マクロ経済学』日本評論社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論 I B	01	通 期	4 単位	滝 田 和 夫
[講義概要・学習目標] マルクスの経済学について講義する。そこでは『資本論』全三巻の基礎概念や基本的論理構造の解説と問題点の検討を中心に、マルクスの経済学の体系的理解を目標として講義を進める。それと同時に、マルクスの経済学と古典派経済学とのかかわりや、現代マルクス経済学の到達点、さらにはいわゆる近代経済学との相違もできるだけ明らかにしていきたい。使用テキストは平明に書かれているので、事前に一読しておくことで講義が理解し易いであろう。	[講義計画] <前期> I. 経済学の対象と方法 II. 市場経済 1. 商品経済 2. 貨幣経済 III. 資本とその増殖 1. 貨幣の資本への転化 2. 絶対的剰余価値の生産 3. 相対的剰余価値の生産 <後期> IV. 価格と利潤 V. 資本の再生産と蓄積 1. 資本の蓄積過程 2. 社会的総資本の再生産過程 3. 利潤率の傾向的低下法則			
[成績評価の方法] 年2回行なう試験の成績による。	[参考文献] 置塩信雄（著）『マルクス経済学』 筑摩書房 森嶋通夫（著）高須賀義博（訳）『マルクスの経済学』 東洋経済新報社			
[教科書] 平井・北川・滝田（共著）『経済原論』 有斐閣				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論 I B	02	通 期	4 単位	松 尾 純
[講義概要・学習目標] ソ連・東欧の「社会主義」の崩壊とその後の社会変革は何を意味するのか。中国共産党が推進している「市場社会主義」とは何か。そもそも社会主義とは何か。マルクスの考えていた社会主義とはどのような社会システムであるのか。またそれは、われわれが現在生活している資本主義社会システムとどのように異なっているのか。ソ連・東欧の「社会主義」の崩壊によって一旦「勝利」したと見られた資本主義もその行方は不透明である。これら一連の問題を考えるまえに、いま改めて資本主義社会とは何かということが問われなければならない。本講義では、このような問題意識に立って、マルクス経済学の“再構築”を目指す。したがって、これまで教科書的に理解されてきたマルクス経済学の諸命題について根本的な再検討を加えつつ、講義を進めていくことにしたい。	[講義計画] (前期) 1. 唯物史観とは何か。 2. 労働疎外論とは何か。 3. 『共産党宣言』には何が書かれているか。 4. マルクスの社会主義像とソ連・東欧の「社会主義」 (後期) 1. 経済学の対象と方法。 2. 商品とは何か。 3. 貨幣とは何か（本質と諸機能） 4. 資本とは何か。 5. 資本の生産過程 6. 資本の蓄積と再生産 7. 過剰人口論と資本過剰論			
[成績評価の方法] 成績の評価は年度末に行う試験結果による。出席率は一切考慮しない。出題形式は、今現在、語句説明5～6問と選択式論述式問題1問である。	[参考文献] 参考書は授業時間中に適宜お知らせします。			
[教科書] 講義概要の趣旨から分かるように、教科書は使用しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論Ⅱ		通 期	4 単位	伊代田 光 彦
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>次の2つの問題に焦点をあてて講義を進める。 近年、所得・資産分配の格差に関する関心が高まっている。停滞経済の下で所得の伸びが期待できず、しかも高齢化社会が迫りくる状況の中では、強い関心だけでは済まされない問題である。分配に関する問題を理論、日本の実態、政策の3つの側面から総合的に明らかにする。 1970年代のスタグフレーションの中で、ケインズ経済学の有効性が疑問視されるようになり、マクロ経済理論は混迷の時代を迎えた。この中から誕生した反ケインズ派経済学について概説するとともに、その評価を行う。一方、その後誕生した新ケインズ派理論、新古典派の新しい理論展開についても時間の許すかぎり概説し、その評価を行う。 必要に応じて基礎的な理論の説明も行い、できる限りゆっくり講義を進めていくつもりであるが、受講は二回生以上が望ましい。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>I 所得分配（理論、実態および政策）</p> <p>1 はじめに 4 人的分配の分析概念（2回）</p> <p>2 所得分配の基礎理論（4回） 5 所得・資産分配の実態（3回）</p> <p>3 所得分配率 6 分配に関する政策の現状と問題点</p> <p>II マクロ経済学の潮流</p> <p>1 ケインズ経済学（4回） 国民所得の決定とその応用、貨幣分析、ケインズ政策</p> <p>2 反ケインズ派経済学（4回） フリードマンの新貨幣数量説、合理的期待形成学派、供給重視の経済学</p> <p>3 新ケインズ派理論（2回）</p> <p>4 新古典派リアル・ビジネスサイクル理論（2回）</p> <p>5 おわりに（マクロ経済学の展望）</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>原則として年度末試験によって行う。</p>		[参考文献]		
<p>[教科書]</p> <p>稲別正晴・伊代田光彦・植田政孝（共著）『新版現代経済学の基礎（全訂）』（法律文化社、1998年）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学史Ⅰ (旧経済学史)		前期集中	4 単位	熊谷次郎
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>前期集中講義なのでそのつもりで履修すること。 どんな実家であっても、「過去のある経済学者の奴隷であるのが普通である」と言ったのはケインズであるが、現代の経済思想も、それが自由主義的市場万能論であろうと、政府による経済の規制論であろうと、経済学史上ではすでにいろいろがエコノミストが論じていたところである。だから経済学が過去において何を問題にし、どう論じていたを学ぶことは、同時に現在の問題を考えることでもある。経済学史を学ぶことで、現代の経済と経済学へのアプローチに広がり深さが加わるであろう。 この講義では近代における経済学の生誕から重商主義を経て古典派経済学が成立していく過程を中心にみていくが、古典派への批判者たちと現代経済学への橋渡しをした学派への概説的な言及もなされよう。経済学の生誕・発展がヨーロッパ、とくにイギリスで展開されたことから、講義の対象はイギリスが中心（フランス、ドイツ、アメリカがその周辺を形成。ときに日本へのそうした経済学の導入に言及）となる。歴史や思想に関心のある諸君の受講が望ましい。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>講義は以下の順序で進められる。</p> <p>1. 経済学はいかなる時代にどのようにして生まれたか（16世紀の商業革命、17世紀の科学革命などとの関係における経済学の生成過程）</p> <p>2. 重商主義の思想と政策（17世紀初頭から18世紀中葉にかけての貿易差額と貨幣を重視する思想と政策の展開）</p> <p>3. 重商主義から古典派経済学へ（18世紀中葉から後半の政治経済の世界史的転換期に登場する独創的な経済学者たちの思想学説）</p> <p>4. 古典派経済学の諸相（18世紀後半から19世紀中葉までの経済学の範型を創りだした思想と学説）</p> <p>5. 古典派経済学批判の群像（19世紀中葉から19世紀末までの社会主義、歴史主義、国民主義、限界分析などの立場に立つ古典派批判者たちの概観）</p> <p>6. 現代経済学への途（19世紀末から20世紀初頭までの、現代経済学の展開を準備した時代の経済学の鳥瞰）。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末試験の成績をもってする。時折出欠をとる。</p>		[参考文献]		
<p>[教科書]</p> <p>田中敏弘編著『経済学史』八千代出版、1997年</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学史Ⅱ (旧経済学特講－経済学史Ⅱ)		通 期	4 単位	服 部 容 教
〔講義概要・学習目標〕 本年度は、主としてイギリスにおける経済学の発展を概観したい。イギリスの経済学は、限界革命に貢献したジェヴォンズに始まり、部分均衡理論を確立したマーシャルによって形成されたケンブリッジ学派へと、さらに『雇用・利子・および貨幣の一般理論』で「ケインズ革命」と言われるケインズの経済学が生まれ、ケインズ派が世界的に形成され現代に至っているという歴史を持っている。 このような彼等の貢献の内容は極めて広範囲にわたるため、全てについて言及することは不可能であるが、出来るだけ原典に当たりながら解説して行きたい。したがって、履修者にも、原典にあたってもらう。 なお、受講者は、初歩的なマイクロ経済学、マクロ経済学の知識を持っていることが望ましいので、これらの科目を履修しておくか、あるいは平行して履修してもらいたい。		〔講義計画〕 1 近代経済学の誕生 2 ジェヴォンズと限界革命 3 マーシャルの経済学 4 マーシャル息子の経済学 5 ケインズ経済学 6 現代経済学の潮流		
〔成績評価の方法〕 出席・レポートも重視するが、最終的には学年末の試験により評価する。なお、受講者数が少ない場合は数回のレポートを提出し、これをもって評価を行なう。		〔参考文献〕 授業中に適宜指示する。		
〔教科書〕 使用しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済成長論 (旧経済変動論)		後期集中	4 単位	西 川 憲 二
〔講義概要・学習目標〕 西欧諸国は近代工業を築き上げることによって、ここ数百年たらずで、その他世界を席卷してきた。その結果、現在では、各国が世界的な経済競争にさらされるようになった。この講義では、西欧の経済発展の歴史をふりかえるとともに、経済成長の理論と、成長の原動力である技術革新の重要性を論じていく。		〔講義計画〕 近代西欧とアメリカの経済発展 日本の高度成長 経済成長理論 技術進歩の経済学		
〔成績評価の方法〕 出席、レポート、年度末試験。		〔参考文献〕 なし。		
〔教科書〕 なし。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
景気循環論		通 期	4 単位	滝 田 和 夫
【講義概要・学習目標】 1990年代に入りバブルの破裂とともに不況に陥った日本経済。その後93年末から97年初めにかけて微弱な景気回復があったものの、この8年間、日本経済は長期大不況の真直中にある。学生諸君は、自分の就職がどうなるのか不安に思うと同時に、なぜ資本主義経済において好況・不況の景気循環が存在するのか、疑問に思っていることだろう。この講義では、景気循環に関する経済学の標準的・基本的な理論を理解することに主眼を置き、併せてその問題点を検討していきたい。そこでは、リアル・ビジネス・サイクルなどの現代の景気循環論についてもできる限り言及する積もりであるが、力点はあくまでも基礎的な景気循環論の把握に置き、具体的にはヒックスの景気循環論の十分な理解あたりを目標としたい。なお、この講義は私にとって初めての講義なので、以下の講義予定は暫定的なものであり、試行錯誤の講義になるであろうことをご了解願いたい。		【講義計画】 1. 景気循環とは何か 2. 景気循環論の基礎 3. 乗数・加速度モデル 4. 非線型景気循環論 5. 不規則衝撃の理論 6. 均衡景気循環論 7. 景気循環の諸問題		
【成績評価の方法】 試験の成績による。		【参考文献】 J. R. ヒックス（著）古谷弘（訳）『景気循環論』（岩波書店） M. カレツキ（著）宮崎義一・伊藤光晴（訳）『経済変動の理論』（新評論）		
【教科書】 A. W. マリーノー（著）小島照男（訳）『ケインズ以後の景気循環論』（多賀出版）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
計量経済学		通期	4単位	荒木英一
【講義概要・学習目標】 経済理論を現実世界の経済データとつきあわせて、理論が主張する命題の正否を検証したり、経済予測に役立てようというのが、計量経済学の目的です。そのために、計量経済学では、統計学の知識を援用しながら、経済モデルを構成し、推計する作業を行います。 経済モデルとは、エコノミストの頭のなかにある経済に関する知識を、誰の目にも見えるように、数式のかたちで表現したものといえるでしょう。推計とはモデルを現実のデータとつきあわせてみることです。試行錯誤を繰り返しながら経済モデルを改善して、検証や予測に役立てます。 経済モデルを構成し、経済の動きをシミュレートしてみることは、経済変数間の関係を整合的に理解する上でも有益です。本年度は、前期は回帰分析、後期は計量経済モデルの構成に焦点をあてます。		【講義計画】 1. 相関と回帰 2. 最小二乗法、決定係数 3. 回帰における検定 4. 経済データの特徴 5. 要因分解・弾力性の推計 6. 消費関数、投資関数の推計 7. 同時方程式モデル		
【成績評価の方法】 何回かの小テストと学年末試験。		【参考文献】 適宜に指定する。		
【教科書】 プリントを配布。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日 本 経 済 史	0 1	通 期	4 単 位	梅 本 哲 世
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>「バブル」の崩壊や旧「社会主義体制」崩壊と共に、いま世界経済・日本経済は大きな転換点にある。このような時期であるからこそ、過去を振り返ってそこから学び、現在を批判的に見つつ未来を展望する作業が必要不可欠になるだろう。この講義では、幕末から第2次世界大戦終了までの日本経済の発展を概観し、極東の一島国がどのような過程を経て世界経済に組み込まれ「資本主義化」を進めていったのかを、多面的に考察したい。そのさい、第1に、戦前日本の「資本主義化」が進行した国際的および国内的条件を明らかにし、そのうえで日本資本主義の特質を分析し、第2に、戦後の日本資本主義とのつながりを重視し、戦前と戦後を比較対照しつつ、戦前の日本資本主義をもう一度振り返ってみたい。</p> <p>歴史に興味と関心をもっている学生諸君の受講を歓迎する。現在を見据えて共に歴史から学びたいと思う。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>[前期]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済史の基本概念 2. 幕末の経済と開港 3. 明治維新 4. 殖産興業と松方財政 5. 近代産業の発達－軽工業 6. 近代産業の発達－重工業 <p>[後期]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日清・日露戦争と日本経済 2. 第1次世界大戦と日本経済 3. 1920年代 4. 昭和恐慌 5. 高橋財政 6. 戦時経済 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学年末試験の成績により評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>三和良一著『概説日本経済史 近現代』（東京大学出版会） 安藤良雄編『近代日本経済史要覧』（東京大学出版会）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>石井寛治著『日本経済史 [第2版]』（東京大学出版会）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日 本 経 済 史	0 2	通 期	4 単 位	山 田 雄 久
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>本講義では近世～近代における日本経済の成長史について論じます。徳川期には全国的な農業の発展とともに商工業が都市部を中心として展開し、農村部でも在郷町などを拠点に商工業が次第に発達しました。決して徳川経済は農業のみに止まっていたとはいえないのです。農村部を中心にさまざまな特産物が誕生し、本格的工業化の準備を着々と進めていた事実注目したいと思います。明治期以降農村を中心に発達を遂げた商工業を軸に、日本の工業化を推進した在来産業が技術革新を通じて次第に近代的産業へと転換していきます。このような視点から、日本経済の基礎を築いた在来的経済発展について考察します。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 近世日本の市場経済 2 人口史・物価史 3 商業発展と貨幣・金融 4 幕末の経済発展 5 明治維新と財政・金融 6 企業勃興 7 日清・日露戦後経営 8 国際貿易・金融 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学年末試験の成績で評価します。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>西川俊作「日本経済の成長史」東洋経済新報社、1985年 新保博「近代日本経済史」創文社、1995年 藤田貞一郎・宮本又郎・長谷川彰「日本商業史」1978年 三和良一「概説日本経済史 近現代」東京大学出版会、1992年</p>			
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
西洋経済史		通 期	4 単位	前 田 治 郎
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>18世紀後半のイギリスに始まる産業革命は、人類史的観点からしても、巨大なインパクトをもった。それ以後、資本主義という経済システムが確立・発展し、その下で、人間の生産力は加速度を加えながら飛躍し今日に至る。とはいえ、この過程は常に平坦な道のであったわけではない。すなわち、一方で、経済成長が順調に進展する時期と成長が鈍化し様々な対立が生じる時期が交替したし、また他方では、資本主義の世界的展開過程において、戦争に象徴されるような諸国民国家間の対立も伴わざるを得なかった。本講義では、イギリス産業革命から第1次大戦までを対象時期として、イギリス、フランス、ドイツ、アメリカにおける各国資本主義の確立・展開過程を縦軸に、各国資本主義の関係の緊密化＝資本主義の世界体制の形成過程を横軸にとり、いわゆるパクス・ブリタニカの歴史的發展を考えたい。</p>		<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イギリス産業革命と各国の対応 2. イギリス資本主義の再編成 3. パクス・ブリタニカの生成と発展 4. 大不況期と独占資本主義 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>後期試験と授業中に数回行う小テスト</p>		<p>[参考文献]</p> <p>藤瀬浩司 (著) 『資本主義世界の成立』 (ミネルヴァ書房) 加勢田 博 (編) 『概説西洋経済史』 (昭和堂) シドニー・ポラード (著) 『ヨーロッパの選択』 (有斐閣選書)</p>		
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済政策		通 期	4 単位	津 田 直 則
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経済政策論は政府の目標と手段の関係について議論する学問分野である。目標と手段の関係は抽象的レベルで分析することもあれば具体的レベルで分析することもある。また、制度や経済体制などの質的問題を議論することもあれば、国民所得や消費などを数量的に扱うこともある。これらを全般的に扱い、経済政策論の体系を学習する。</p> <p>経済政策論は市場メカニズムの働きに任せることができない分野を政策活動で補うという形をとっているために、市場メカニズムとは何かということが分からないと経済政策論はなぜ必要なのか分からない。市場メカニズムとは何かというのは経済理論の分野の問題であるから、経済原論ⅠAを履修していることが望ましい。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済政策論の対象と課題 2. 経済政策論の思想的課題 3. 経済政策の目的と手段 4. 経済政策の形成過程 5. 経済政策論のためのミクロ理論 6. 政策形成主体の行動理論 <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 経済政策論のためのマクロ理論 8. マクロ計量経済モデル 9. 財政政策 10. 金融政策 11. 産業組織政策 12. 資源環境政策 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期、後期のテスト</p>		<p>[参考文献]</p> <p>津田直則、長屋泰昭、田中康秀編『現代経済体制と経済政策』見洋書房</p>		
<p>[教科書]</p> <p>丸谷冷史、家森信善編『経済政策講義』中央経済社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界経済事情		通 期	4 単位	モグベル ザファル
【講義概要・学習目標】 <p>今日の世界経済では「対岸の火事」と悠長(ひさびさ)なことは言っていない。すべてが同時進行で展開し、ポーダレスに迫って来る。「GLOBAL」と「LOCAL」の垣根がぼやけて行く中で世界の経済事情に関するよりの確な情報と理解が問われていることは言うまでもない。</p> <p>このような見地に立ってこの講義では「国際化」「グローバル化」をキーワードに地球経済を展望する。前半は総論部分として、国際経済体制の生い立ち・現状とそのルール・問題点、と今後の方向性について検討する。後半は、世界経済に関連したトピックスを取り上げて分かりやすく解説する。受講生が新聞の国際経済記事を興味をもって読み、自分なりの解釈とオピニオンを持てるようになれば幸いである。主に以下のようなテーマの中から、タイムリーなトピックスを抽出して講義する。ただし、「世界経済入門」(総論)以降は略不同。</p>	【講義計画】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 世界経済入門 <ul style="list-style-type: none"> - 先進国・中進国・途上国とその他の分類の根拠と意味 - 今日の世界経済のルールとその起源 - GATT・WTO と世界貿易 - IMF と国際金融体制 - 国際収支の仕組みと日本の国際収支の最近の動向 2. 開発途上国の実態と戦略 3. NIEs 諸国の実態と戦略 4. アジア通貨危機のその後 5. ODA は世界を貧困から救えるか? 6. 経済摩擦はだれの責任? 7. 地域主義は「妙案」なのか? EU, NAFTA, APEC を巡って 8. 一人勝ちのアメリカ経済 9. 石油と一次産品: 「超水河期」に向けて 			
【成績評価の方法】 <p>成績評価は原則として年度末に行う試験結果による。</p>	【参考文献】 <p>『通商白書』<総論>、通商産業省 (平成10年、11年版)</p>			
【教科書】 <p>宮崎 勇 ・ 丸茂 明則 (編) 『世界経済読本』 (東洋経済新報社)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
現代資本主義論		通 期	4 単位	濱 田 博 男
【講義概要・学習目標】 <p>米ソ冷戦体制終焉後、いまだに新しい世界の政治・経済秩序は形成されていない。旧社会主義諸国の経済混乱、民族・地域紛争の多発などのほか、先進資本主義諸国もまたそれぞれに困難な課題に直面している。日本経済はバブル崩壊後の長期不況・金融システム不安からの脱却に苦しんでおり、戦後50余年、これまでの政治・経済・社会のすべてに大きな構造改革が必要とされている。高い経済成長をつづけてきた東アジア諸国も97年夏以降、深刻な経済危機に陥っており、それはロシア・中南米に波及し、さらにはヨーロッパ・アメリカ経済への負の連鎖も懸念されている。</p> <p>グローバルな地殻変動の動きのなかで、21世紀の世界と日本はどのような姿になるのか、考えるべき課題は多い。本講義では日本経済を中心としながら、現代資本主義の抱える諸問題(とくに日米関係、対アジア関係に重点を置く)について考えていきたい。</p>	【講義計画】 <p>講義で取り上げるテーマ(参考例)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 冷戦終焉後の世界と日本 2. 日本型資本主義とアメリカ型資本主義 3. バブル崩壊後の日本経済 4. 銀行不良債権と金融システム不安 5. 産業構造の変化と“産業空洞化”問題 6. “規制緩和”問題 7. 日米関係—経済摩擦問題を中心に— 8. 東アジア経済圏の抱える諸問題と日本の役割 9. 21世紀への課題 <p>その他</p>			
【成績評価の方法】 <p>原則として年度末試験の成績による。 (年度途中でレポートを課すこともある)</p>	【参考文献】 <p>レスター・C・サロー (著) / 山岡洋一・仁平和夫 (訳) 『資本主義の未来』 (TBSブリタニカ) 日本経済新聞社 (編) 『ゼミナール・日本経済入門』 (日本経済新聞社)</p> <p>その他</p>			
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本経済論		通 期	4 単位	鈴木 健
【講義概要・学習目標】 <p>日本経済はいま、かつて経験したことのない長期不況の真っ只中にある。80年代後半のバブル経済の破綻を直接的契機として始まったこの長期不況が、単なる景気循環の一面としての不況にはとどまらない性格をもっていることについて、異論を唱える者はいまや少数派に属するといつてよい。戦後の高度成長を現実のものとした諸々の条件が失われ、成長の条件を再建しえないでいる日本経済の困難を反映した不況であるという点で、多くの論者の見解は共通している。日本経済が不況下にあることを頑なに否定しつづけた政府当局でさえ、「日本的経済システム」の行き詰まりに言及せざるを得なくなっている（96年版『経済白書』）。</p> <p>本講義では、90年代の長期不況に帰結する戦後の日本経済の歴史を振り返り、日本経済の構造と運動の特殊なあり方について検討することにする。アメリカへの政治・軍事的な従属を前提に構成された深い対米依存経済の枠組みのもと、国内的には政-官-財権者の統治システムのもとで機能してきた日本の経済システムの確立・展開・行き詰まりの過程を歴史的に振り返ってみるといふことである。中心的な検討課題は、日本的な大企業支配のシステムの確立・展開・行き詰まりということになる。</p>	【講義計画】 <ul style="list-style-type: none"> ・第1回、年間講義計画の概要 ・第2回、占領下経済改革① ・第3回、占領下経済改革② ・第4回、戦後産業再建① ・第5回、戦後産業再建② ・第6回、戦後金融システムの再建① ・第7回、戦後金融システムの再建② ・第8回、戦後日米経済関係① ・第9回、戦後日米経済関係② ・第10回、高度成長の産業的条件① ・第11回、高度成長の産業的条件② ・第12回、高度成長の金融的条件① ・第13回、高度成長の金融的条件② ・第14回、高度成長の国際的条件① ・第15回、高度成長の国際的条件② ・第16回、高度成長の主体的条件① ・第17回、高度成長の主体的条件② ・第18回、高度成長の終焉-内外諸条件の喪失 ・第19回、過剰資本の蓄積と恐慌 ・第20回、バブルの膨張と破綻 ・第21回、90年代長期不況 ・第22回、90年代金融恐慌（平成金融恐慌） ・第23回、産業再編と金融再編 ・第24回、日本の経済システムの行き詰まり ・第25回、日本経済の再建① ・第26回、日本経済の再建② 			
【成績評価の方法】 <p>次の二つの評価の総合による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一、学年末試験の評価（5～6割配点） ・第二、年間4～5回行うレポート（5～4割配点） 	【参考文献】 <ul style="list-style-type: none"> ・井村喜代子『日本経済論』（有斐閣） ・橋川武郎『日本の企業集団』（有斐閣） ・鈴木健『日本の企業集団』（大月書店、1993年） ・中村孝俊『現代日本資本主義』（新日本出版社） ・橋本寿郎編『日本経済の発展と企業集団』（東大出版会） ・大槻久志『金融恐慌とビッグバン』（新日本出版社、1998年） ・工藤賢『現代帝国主義研究』（新日本出版社、1998年） 			
【教科書】 <ul style="list-style-type: none"> ・鈴木健『メインバンクと企業集団』（ミネルヴァ書房、1998年） 				

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ
生活経済論 (旧経済学特講-生活経済論)		通 期	4 単位	安藤 洋美
【講義概要・学習目標】 <p>最も原始的な生活（現在では災害時の生活）から、高度に進化した快適な市民生活まで、多様な生活様式に対して、人類は何を必要とし、何を不要としているのか。それらを経済学や法学の社会科学や、医学や数人科学のいろいろな分野からの専門家たちによる分担講義を聴くことによって、諸君たち一人一人の生活経済論を構築してほしい。できるだけ現在または将来の生活に役立つ諸問題を幅広く取り上げて行く予定である。</p>	【講義計画】 <p><前期> 1. 生活を取り巻く環境、2. 生活と行政、3. 生活と災害、4. 生活と健康問題、5. 生活防衛問題。 <後期> 6. 生活と法律、7. 生活向上の手段と方法、8. 潤いのある生活（教養と娯楽）、9. 情報社会における生活 以上の項目がそれぞれ二三人の講師によって講じられる。ただし、講師の都合により、年度始めの予定が若干変更されることもある。</p>			
【成績評価の方法】 <p>期末試験による。</p>	【参考文献】 <p>経済企画庁『国民経済白書』（各年度分）</p>			
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
財政学		通 期	4 単位	藤 岡 純 一
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>財政とは、国や地方自治体など公共部門の経済活動のことである。その規模は、先進諸国において、今やGDP（国内総生産）の3分の1から2分の1に達している。現代経済は財政めきには語れない。</p> <p>財政の役割として、福祉・教育・保険・年金・防衛・公共事業などがある。また、所得税・法人税・消費税・自動車関係税などは、国の経済の重要な収入源である。さらに、何十兆円という国債が1998年度に発行された。国債は将来の税負担となる。</p> <p>財政を考えるうえで重要なのは、民主主義の視点である。これをわれわれは財政民主主義と呼ぶ。何よりも、納税者である国民が納得のできる財政であることが望ましい。国の支出は国民生活の向上という形で国民に還元されているか？ 税制度は国民にとって公平であろうか？</p> <p>一年間の講義によって、学生諸君が財政についてさまざまな問題意識を持つことを期待している。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>下記の教科書を使いできるだけ解りやすく講義する。目次は以下の通り。</p> <p>第1部 財政民主主義 第2部 現代経済と公共部門 公共部門の役割と経費 財政のグローバル化 公共投資と財政 人口高齢化と財政 第3部 税制と税制改革 租税の基礎理論 所得税・法人税 消費税と資産課税 税制改革の理論と実際</p> <p>第4部 財政と金融 公債と公債政策 財政投融资 第5部 地方財政 第6部 財政思想と財政改革</p> <p>講義の順序は教科書と同じではない。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>試験を基本とする。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>山崎・藤岡編著『現代の財政—新自由主義の帰趨—』昭和堂</p>		
<p>[教科書]</p> <p>重森・鶴田・植田編『Basic財政学』有斐閣、1998</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
金融論		通 期	4 単位	木 村 二 郎
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>「金融ビッグバン」「金融・通貨危機」「金融システム不安」という言葉に代表されるように、私たちを取り巻く経済の中で、改めて金融に関わる出来事が注目されている。この講義は、金融の基本的な内容をまず説明した上で、今日の金融諸現象の意味するところは何かを明らかにする。</p> <p>「お金」「信用」「銀行」「証券」「外国為替」など金融に関わるさまざまな言葉の意味するところは何か。金融は現代の経済においてどのような役割を果たすのか。このような金融に関わる基本的な内容をまず明らかにすることから始めて、次に、今日の日本経済における金融がいかに運営され、どのような制度再編の波にもまれているのかを明確にしていく。そして、私たち生活する者にとって、この金融制度再編の持つ意味は何かを解明する予定である。</p> <p>学習の目標としては、金融の基本的な概念と制度・政策を理解すること、および、新聞などを通じて得られる現状の金融諸現象の内実を理解する能力を身につけることである。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>テキストに沿って、「金融とは何か」「貨幣制度の変遷」「企業金融」「市中銀行」「中央銀行」「金融仲介機関とその他金融機関」「金融市場と金利」「外国為替市場と国際金融市場」「国際決済システムと円」「金融の自由化と国際化」の順に講義を進める。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>レポートと学年末試験の総合評価。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>島村高嘉『図解金融入門』東洋経済新報社、1996年</p>		
<p>[教科書]</p> <p>関根猪一郎・木村二郎・大島重衛・小西一雄著『金融論』青木書店、1999年</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
統計学総論		通 期	4 単位	野 田 知 彦
【講義概要・学習目標】 社会・経済現象を分析し、その背後にある規則性を導き出すための有効な方法の一つに統計的な方法がある。この講義では経済学などの社会科学で必要とされる当統計学の基礎を学習し、様々なデータを分析するための初歩的な統計分析方法の取得を目標とする。具体的には、記述統計と推測統計の基本的な考え方や基礎的な手法を学ぶこととする。なお、統計学の取得には系統的な履修がひつようとなるので、授業を欠席すると講義の内容が理解できなくなり、単位の取得も困難になることは言うまでもない。	【講義計画】 最初の授業で4312を配布可			
【成績評価の方法】 前、後期2回のテスト	【参考文献】 授業中に指示可			
【教科書】 『統計学入門』森標公又著(新世社)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済数学		通 期	4 単位	安 藤 洋 美
【講義概要・学習目標】 経済学に数学が使われたのは、とても古く18世紀のダニエル・ベルヌイに溯る。それ以後19世紀の中頃、クールノーによって『富の理論の数学的原理に関する研究』が出版され以来、急速に経済学の諸概念を数学的に表現することが市民権を得た。この講義では、経済学の内容のいくつかを、日常言語ではなく、数学で簡潔に表現すること；経済現象のモデルの解析と法則表現の手段として数学を利用することを理解させたい。もっと端的に言えば、条件付き極値問題を解くことに主眼点をおいて講義したい。	【講義計画】 <前期> 1変量の微分法（経済学に出て来るいろいろな関数とその限界量、弾力性など） 多変量の微分法（生産の均衡、消費の均衡など） <後期> 積分法、 微分方程式と差分方程式（所得変動、成長理論など）			
【成績評価の方法】 前期と後期の試験と平常の演習の成果とを加味して評価する。	【参考文献】			
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済統計		後期集中	4 単位	桂 昭 政
【講義概要・学習目標】 経済統計は、新聞紙上等でGDP、失業率、消費者物価指数等の経済指標が報告されるごとく事実認識手段として、また理論あるいは仮説の検証ないし実証手段として今日よく利用されている。本講義では日本経済の全体像を把握するうえで、あるいは日本経済の現状を理解するうえで肝要な、現代の国民所得統計であるSNA統計を中心に、個別のミクロ統計である産業統計、労働統計、物価統計等の特質ないし利用例を中心に講義をすすめていく。講義を通じて日本経済の現状の理解を深めるとともに、パソコンによる計算、グラフ作成等の実習を行い、日本経済の現状についての理解がよりいっそう深くなるようにしていきたいと考えている。	【講義計画】 〈後期集中〉 1. 国民所得統計、産業連関表、国富統計等のSNA統計の特質と利用 2. 産業統計、労働統計(含人口統計)、家計統計、物価統計等の特質と利用			
【成績評価の方法】 成績評価は年度末に行う試験結果を主とし、それにレポートを加味して判定する。	【参考文献】 吉田忠・石原健一(編)『統計にみる日本経済』(世界思想社) 木下・土居・森(編)『統計ガイドブック 社会・経済(第2版)』(大月書店) 原田・駒井(編著)『基礎テキスト 日本の経済指標入門』(東洋経済新報社)			
【教科書】 岩井・泉・良永(編著)『情報化社会の統計学(改訂版)』(ミネルヴァ書房) 経済企画庁調査局編『経済要覧(平成11年版)』(大蔵省印刷局)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済情報処理論		通 期	4 単位	野 田 知 彦
【講義概要・学習目標】 現代社会で生き抜いてゆくためには、コンピュータに関する知識は必要不可欠である。本講義では、表計算ソフトの使い方を初歩からマスターし、経済データの処理の方法をマスターするとともに情報処理の基礎知識を身につけることを目標としている。コンピュータの使い方をマスターしながら、企業レベルのミクロデータと国民経済全体を表すマクロデータを用いて、日本経済の現状分析を進めたい。とりわけ、賃金、雇用、失業などの動きに注目したい。系統的な履修が必要となるので、授業を欠席すると講義の内容が理解できなくなり、単位の取得も困難になることは言うまでもない。	【講義計画】 最初の授業でワークシートを配布する			
【成績評価の方法】 前後期2回のテストとレポート	【参考文献】 授業中に指示する			
【教科書】 なし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
計算機演習	01	通 期	4 単位	濱 田 寅 彦
	02	通 期	4 単位	
【演習概要・学習目標】 経済等の例題を素材にしてコンピュータ実習を行うことで、それらの科目をより身近に感じてもらうというのがこの科目の狙いです。しかし、実習を通じてコンピュータに関する知識を深めてもらうという意図もあります。前期を基本操作の習得にあて、後期には経済理論や実証分析の中からいくつかのテーマを選んで、データ処理の実際を学んでいくこととします。	【演習計画】 前期 1. コンピュータ操作に関する基礎知識・Windows95の操作方法 2. タッチタイピングとワープロでの文字入力 3. 電子メールとWWWブラウザ 4. Webページの作成 後期 5. OSIに関する基礎知識 6. Perlを用いたデータ処理・CGIプログラミング 7. 表計算によるデータ処理・シミュレーション			
【成績評価の方法】 出席・レポート・試験	【参考文献】 桃山学院大学計算機センター編集『ユーザーズガイド』 【その他】 1. 実習の授業には人数制限があるので、履修登録の前に予備登録をすること。 (注意: 履修する気も無い(一度も授業に来ない)のに予備登録しないこと) 2. 電子メールの利用申請を各自が計算機センターにて済ませること。			
【教科書】 プリントを配布する この授業のWebページ				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
計算機演習	03	通 期	4 単位	村 松 郁 夫
	04	通 期	4 単位	
【講義概要・学習目標】 本講義は、パーソナルコンピュータを利用した実習形式で授業を進める。講義の目的は、様々なマイクロおよびマクロ経済データを実際に「処理」することを通して、経済学で扱われる問題やその分析手法などについての知識を深めることにある。 データの処理には、①必要なデータを検索し、抽出する、②抽出されたデータを加工し、分析する、③分析結果を整理し、伝達する等の手順が含まれる。本講義では、データの検索・抽出に関しては、企業財務データやNEEDSのマクロ経済データなどのデータベースを適宜利用する。データの加工・分析、分析結果の整理・伝達に関しては、表計算ソフトやワードプロセッサを組合せて用いる。 なお、データの保存用として、3.5インチ2HDのフロッピー・ディスクを2、3枚、持参すること。	【演習計画】 <前期> 1. コンピュータに関する基礎知識、Windowsの操作方法、ファイルやフォルダの取り扱いなど 2. インターネットの利用方法（電子メール、WWW、ホームページの作成方法など） 3. ワードプロセッサの操作方法 <後期> 1. 統計データベースの利用方法 2. 表計算ソフトの操作方法 3. 統計的処理の方法 4. VBAを用いた経済分析			
【成績評価の方法】 講義の最初に実習内容についての説明を行い、残りの時間に各自実習する形式で授業を進める。講義終了時に、毎回、実習結果をレポートとして提出してもらい、その内容で成績を評価する。	【参考文献】 コンピュータに関する参考書は、最新のものを利用することが望ましいので、適宜、紹介する。なお、自分が現在利用している参考書で代替してもらってもよい。			
【教科書】 開講時に指定する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
計算機演習	05	通 期	4 単位	吉 川 真 裕
	06	通 期	4 単位	
【演習概要・学習目標】 経済学部の特設科目に対応したコンピュータ実習を行うことで、それらの科目をより身近に感じてもらうというのがこの科目の狙いです。しかし、経済学の例題を素材にしてコンピュータ操作に関する知識を深めてもらうという意図もあります。前期を基本操作の習得にあて、後期には経済理論や実証分析の中からいくつかのテーマを選んで、データ処理の実際を学んでいくこととします。	【演習計画】 1. コンピュータに関する基礎知識、Windows の操作方法 2. タッチタイピングとワープロ 3. 電子メールと WWW ブラウザ 4. 表計算ソフトの基本操作 5. ホームページの作成 6. マクロ経済・ミクロ経済の統計データベース検索 7. 表計算ソフトと VBA を用いたデータ処理			
【成績評価の方法】 出席点・平常時の課題提出・試験で決める。	【参考文献】 適時指示する。			
【教科書】 プリントを配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学特講 (外国直接投資と発展途上国)		通 期	4 単位	カ 何 イ 為
【講義概要・学習目標】 世界における直接投資の大部分は先進諸国間の直接投資であるが、発展途上国の中でも特にアジア諸国は多くの直接投資を引き付けること成功した。直接投資は、受け入れ国の途上発展国に対してどのような影響を与えているのだろうか。本講義では、中国を中心に考えていく。	【講義計画】 前期：直接投資が発展途上国の経済発展に積極的な役割を果たしていることを踏まえて、直接投資の定義および発展途上国における経済的役割に関する理論を講義する。 後期：中国経済における直接投資のインパクトについて根拠的の説明を行う。			
【成績評価の方法】 評価は、出席、レポートを軸で行う	【参考文献】 適宜指定する。			
【教科書】 内藤 昭(著)『中国市場経済化と日中経済競争』(学文社) とプリントを併用する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
簿記	01	通 期	4 単位	近 藤 健 司
	02	通 期	4 単位	
[講義概要・学習目標] 企業は、複式簿記の原理を使って、日々の取引を記録・計算・整理し、その結果作成される財務諸表を通じて、自らの財政状態と経営成績を把握する。また、債権者・株主・税務当局などに必要な会計情報を伝達する。 本講義では、初めて簿記を学習する学生を対象として初級の商業簿記を講義する。学習内容は、複式簿記の計算原理・計算構造の理解、仕訳の習熟、財務諸表の計算練習、帳簿の合理的な付け方の4点である。 授業に当たっては、簿記の基本的な仕組み理解と計算技術の習得という理論と計算の両面にわたる故に、毎時間、説明とともに、練習問題を多数課して、つとめて実践的に行いたい。積み重ねが必要な科目であるので、極力休まないように努力してほしい。	[講義計画] <前期>Ⅰ 複式簿記の計算原理 (資産・負債・資本と貸借対照表、費用・収益と損益計算書、財産計算と損益計算の統合) Ⅱ 複式簿記の計算構造 (取引・勘定・仕訳、仕訳帳・元帳、試算表・決算Ⅰ) Ⅲ 勘定科目各論 (現金・預金、仕入・売上、売掛金・買掛金) <後期>Ⅳ 勘定科目各論 (受取手形・支払手形、その他の勘定科目) Ⅴ 決算Ⅱ (決算整理、8桁精算表、財務諸表 [損益計算書、貸借対照表]) Ⅵ 帳簿組織 (伝票会計制度—三伝票制、五伝票制)			
[成績評価の方法] 前後期各1回の筆記試験の成績に、課題の提出、出席状況を加味して総合評価する。なお、本年度中に日本商工会議所簿記検定試験3級以上に合格した者には、別途加点評価する。	[参考文献] 新井清光 (監修) 「日商簿記検定新ワーク・ブック3級」 (税務経理協会)			
[教科書] 中田信正・徐龍達・堀友章・全在紋 (共著) 「現代簿記論」 (中央経済社)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
民法概論		後期集中	4 単位	林 錫 璋
[講義概要・学習目標] ある程度の法学的素養というか民法の知識を必要とすると思われる学生のために、民法の全五編について概説する。 講義は、民法の最少必要限の知識を、重点項目において講述し、民法全般について理解ができるように努めたい。	[講義計画] 1. 民法の基本原則 2. 権利能力と行為能力 3. 法人の意義及び種類 4. 法律行為の意義及び性質 5. 有権代理と無権代理 6. 無効と取消 7. 時効制度 8. 物権の意義及び客体 9. 公示の原則と公信の原則 10. 占有権・所有権その他の物権 11. 法定担保と約定担保 12. 債権の発生原因 13. 連帯債務と保証債務 14. 債権者代位権と債権者取消権 15. 契約の成立と効力 16. 不法行為と特殊不法行為 17. 親族の種類及び範囲 18. 婚姻と離婚 19. 協議離婚と判決離婚 20. 認知 21. 養子と特別養子 22. 相続人と相続分 23. 遺言の意義及び方式 24. 遺留分			
[成績評価の方法] 年度末試験を重視し、レポート・出席状況を加味して総合評価する。	[参考文献] 谷口知平・甲斐道太郎 (編) 『新版 現代民法入門』 (法律文化社)			
[教科書] 山本正憲著『概説 民法 (改訂版)』 (法律文化社) 塩野 宏ほか (編) 『ポケット 六法』 (有斐閣)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
商法概論		通 期	4 単位	吉 見 研 次
[講義概要・学習目標] この講義では、商法全般の基礎的な知識を講述する。商法の分野ごとの詳細な内容については別に「商法Ⅰ」「商法Ⅱ」が開講されているので、本講義では商法全体の基本的なしくみを解説する。ただ、時間の制約上、商法のうち主に株式会社法と手形・小切手法を取り上げることとなる。なるべくわかりやすく説明するように努力したいが、受講者には法学とりわけ商法学を学ぼうとする意欲が要求されることはいまでもなかろう。 なお毎授業時に『六法』を携帯すること。私語も遅刻も厳禁。その他受講時の留意事項について、最初の授業の際に言及する。	[講義計画] I 商法の概観 II 会社法 (1)会社の種類 (2)株式会社 ①設立 ②法人成り ③株主 ④株式譲渡 ⑤株主総会 ⑥総会決議 ⑦取締役 ⑧取締役の責任 ⑨監査役 ⑩新株発行と社債 ⑪計算 ⑫基礎的変更 III 手形法・小切手法 (1)約束手形 ①振出 ②振出時のトラブル ③裏書 ④善意者保護 ⑤流通時のトラブル ⑥支払・不渡等 (2)為替手形 (3)小切手 ①振出等 ②繰引小切手 IV 商法総則・商行為法 ①総則 ②商行為法			
[成績評価の方法] 正誤文選択等の短答式の学年末テストを予定している。	[参考文献] 平井宜雄他編『ポケット六法 平成11年版』(有斐閣) 田村淳之輔他編『目で見える商法教材 第2版』(有斐閣)			
[教科書] 岩崎稜他『セミナー商法』(日本評論社)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
憲法		通 期	4 単位	前 田 徹 生
[講義概要・学習目標] A子さんは学校の方針に反して私服通学を続けていたことから、内申書の総合所見欄にどう書かれているのか関心があった。公立高校への受験を控えたA子さんはB市の個人情報保護条例に基づいて開示請求を求めたが、B市側はこれを拒否する決定を下した。Aさんは決定の取り消しを求めて裁判所に訴えた。さて、君が裁判長であったら、どういう判断を下すだろうか。 憲法学(法学)を学ぶことの意義は「リーガル・マインド」を養うことにある。それはこうした対立する諸利益や価値とを比較衡量し、法に則りながら一定の結論を導き出す論理的思考能力を養うことにある。 通常の憲法学の講義と順序は多少こととなるが、前期は、基本的人権の領域について、具体的な事例を中心に法的紛争の構造とアプローチの方法を示し、次第に憲法学に共通の基本原理や総則の領域へと展開してゆきたい。	[講義計画] ①憲法ガイダンス・憲法学とは？ ⑩被疑者・被告人の権利 ②個人の尊重と幸福追求権 ⑪生存権 ③法の下での平等 ⑫日本国憲法成立史 ④思想・良心の自由 ⑬第九条の起源 ⑤学問の自由 ⑭第九条と日米安保条約 ⑦宗教の自由・政教分離の原則 ⑮基本的人権の享有主体 ⑧表現の自由 ⑯基本的人権の私人間効力 ⑨職業選択の自由 ⑰違憲審査制			
[成績評価の方法] 前期、後期の二度の試験を総合して評価する。	[参考文献] 佐藤 功『日本国憲法概説』(全訂第五版)学陽書房 樋口陽一『憲法入門』勁草書房 芦部信喜『憲法』岩波書店 佐藤幸治『憲法』(第三版)青林書院			
[教科書] 粕谷友介・向井久了編『憲法』青林書院				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学入門（編入生用）		通 期	4 単位	落 谷 硯 児
<p>【講義概要・学習目標】</p> <p>1990年代の日本経済はバブル崩壊後の長期不況と金融危機に苦しんでいるが、そのバブル形成およびバブル崩壊後の金融危機対策に大きな影響を与えたのがメディアによる経済報道および批判であった。本講義では任意処理、金融機関への公的資金導入、消費税導入と競争アツク等々の決定的な節目における主要メディアの報道とそれによる政策当局の政策形成のブレ（失敗）について具体的な実例によって学習し、今日の日本経済の危機的状況の真因について考察を深めることを目標とする。</p> <p>その際、昭和初年の金輸出解禁恐慌に付いて当時のメディアの報道を回顧し、現代とを比較を行なう。</p>		<p>【講義計画】</p> <p>1. テキストの順序にしたがって講義を行なうが、これは別に集積した資料も教材として適宜挿入して講義を行なう（経済企画庁の景気判断のミス等）。さらに受講者にも新聞の経済記事等に付いてスクラップした課題とし、批判的な判断力を育てようとする予定（前期）。</p> <p>テキストには任意処理までで終わっているが、その後の金融破綻と金融再生関連法案の成立に至るまでの経済報道についても追跡し、「メディアと政策形成」の関連について考察を行ないたい（後期）</p>		
<p>【成績評価の方法】</p> <p>出席状況、提出レポートの内容、期末筆記試験の成績等を総合的に評価して判定する。</p>		<p>【参考文献】</p>		
<p>【教科書】</p> <p>高橋文利著 『経済報道』 中公新書 — 検証・金解禁のビッグバンまで — ￥700+税</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
労働経済論		通 期	4 単位	小 川 登
<p>【講義概要・学習目標】</p> <p>皆さんは、卒業後、労働力商品（生涯賃金は約3億円）を売りつけ、それで生活する賃金労働者になる。3億円もする商品を、品質向上・努力なしで売ろうというのは無理なこと。</p> <p>前期は小川本で、就職差別、反差別の経済学、労働組合の必要性等々を講義したい。本の中味の多くは、アメリカ合衆国の労働運動理論である。</p> <p>後期は小池本で、名著の小池和男『仕事の経済学』で、労働経済学全般、とくに熟練の形成について勉強していく。</p> <p>ほかの商品（たとえば服）には心はないが、労働力商品は「生きた赤いハートをもった商品」である。この商品の特殊性を理解してくれば、学習目標は達成できるのではないか。</p>		<p>【講義計画】</p> <p>（前期）小川 登『労働組合の思想』を中心に講義する。</p> <p>（後期）小池和男教授の名著『仕事の経済学』を中心に講義する。キーワードとなる概念は知的熟練と長期の競争である。</p>		
<p>【成績評価の方法】</p> <p>学年末試験。ただ、下記の2冊の教科書は必ず買うこと。</p>		<p>【参考文献】</p> <p>小川 登（著）「労働経済論の基本問題」（ミネルウア書房） 隅谷三喜男（著）「労働経済論」（筑摩書房） 島田晴雄（著）「労働経済論」（岩波書店）</p>		
<p>【教科書】</p> <p>小川 登（著）「労働組合の思想」（日本評論社） 小池和男（著）「仕事の経済学」（東洋経済新報社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
地方財政論		通 期	4 単位	竹 原 憲 雄
【講義概要・学習目標】 わが国の都市財政の現状について検討する。 現代は都市の時代といわれるなかであって、戦後わが国の都市は先進国のなかでもまれな急膨張をとげてきたが、最近の産業の空洞化や国際分業の進展のなかで、いま「盛衰の岐路」にたたされようとしている。さらには、先の阪神大震災によって、都市システムそのものも見直しをせまられている。この都市における主要な経済活動を都市財政が担っている。 だから、都市財政の実態を明らかにすることは、こと都市の問題であると同時に、今日のわが国の経済社会の実状を知るうえでの焦点の1つになっている。またそれは、巨大な都市行政の姿からすると、いま声高にいわれている「地方分権」にとっても重要な課題である。なお、付論として、大都市圏に組み込まれている地元和泉市の財政分析も考えている。		【講義計画】 1. 都市財政の現状 2. 都市問題 3. 都市の財政需要 4. 都市の財政収入 5. 都市税制 6. 都市財政と財政調整制度 7. 国庫補助金と都市財政 8. 地方債と都市財政 9. 和泉市財政の現状		
【成績評価の方法】 出欠状況、講義内容に関係するレポートの提出、期末の試験により総合評価する		【参考文献】 講義のなかで紹介する		
【教科書】 使用しない				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済開発論		通 期	4 単位	望 月 和 彦
【講義概要・学習目標】 「自己の将来に何の希望もないこれら青年層は、政治的プロパガンダによって容易に動かされ、ヴェルサイユの屈辱的条約に基づく現存体制を憎むようになった。またこの危機の責任を嫁された古い世代も憎しみの対象となり、失業という目前緊急の課題を解決できぬと言う理由で学問は軽蔑された。これらの幻滅を感じた青年は、新たな信仰、新たな活動、新たな生命力を熱心に求めた。彼等にとっては、平和・平等・正義などの昔からの観念はもはや力を失った。」（ジークムント・ノイマン 『大衆国家と独裁——恒久の革命』） いま、わが国は未曾有の危機的状況に入りつつある。経済の破綻は、経済学に対する信頼も揺るがしている。果たして、わが国もかつてのドイツのように経済破綻から社会的混乱に陥り、現代の僭主たるファシズムへの道を進むのだろうか。本講では、まず経済発展という現象の分析を通じて、現在の歴史的意義を明らかにし、経済発展と大衆民主主義およびファシズムとの関連について述べる。さらに、経済発展を疎外するものとして、現在の人類が直面していると考えられている環境問題人口問題について、通説とそれへの批判を紹介し、両者を対比させることによって、冷静な現状分析とは何かを論じる。終わりに、経済発展にとって必要と思われる非経済的的要因について考察することにした。		【講義計画】 【前期】 第一部 経済発展の歴史的意義 第1章 成長と停滞 どちらが当たり前？ 第2章 進歩思想vs終末思想 第3章 大量生産社会の成立とファシズム（全体主義） 第二部 環境問題と成長の限界 第1章 現代の終末思想としての環境問題 第2章 今日の環境問題とその批判 第3章 成長の限界 第4章 doomsdayers vs cornucopian 成長の限界に対する批判 【後期】 第三部 人口と経済発展 第1章 人口の歴史的動態 第2章 今日の人口問題 第3章 人口成長と経済発展 第4章 人口爆発をめぐる議論 第四部 開発政策 第1章 開発の目的と貧困問題 第2章 開発のための条件 第3章 開発政策		
【成績評価の方法】 期末試験の成績のみによって評価する。		【参考文献】 最初の講義の際に配布する受講生用シラバス（講義計画）で指示する。		
【教科書】 望月和彦 『論考経済開発論』				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
公共経済論		通 期	4 単位	竹 歳 一 紀
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>公共経済学の基礎について講義する。公共経済学の扱う範囲は広いが、一口で言えば、単純な価格メカニズムだけでは解決できない諸問題を経済理論により分析することである。また、そのような問題については政府の介入が必要となるため、適切な政策のあり方について示すことが重要な課題となる。この講義では、①公共財と公共投資、②外部性と環境問題、③所得分配と社会保障、④産業の公的規制といったテーマをとりあげる予定である。</p> <p>公共経済学を理解するためには、主としてマイクロ経済学の知識が必要となる。講義でも適宜説明を加えるが、経済原論 I A-1 を履修済みか、同時に履修していることが望ましい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公共経済学とは 2. 厚生経済学の基礎 3. 公共財と公共投資 <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 外部性と環境問題 5. 所得分配と社会保障 6. 産業の公的規制 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学年末試験の成績による</p>	<p>[参考文献]</p> <p>講義中に指示する</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特に指定しない</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
環境経済論		通 期	4 単位	浦 出 俊 和
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>ブラジルでの地球サミットの開催や、京都での地球温暖化防止京都会議など、地球環境問題への関心が高まっている。環境庁は、この地球環境問題を、1)オゾン層の破壊、2)地球の温暖化、3)酸性雨、4)熱帯雨林の減少、5)砂漠化、6)開発途上国の公害問題、7)野生生物種の減少、8)海洋汚染、9)有害廃棄物の越境移動、の9つに分類している。これらの環境問題は、人間の経済活動の結果生じたものであり、従来の市場メカニズムなじまない、あるいはボーダーレスであるという特質ゆえに、解決が困難であるとされてきている。しかし、環境問題に対する経済学の役割は重要である。</p> <p>そこで、本講義では、マイクロ経済学や公共経済学を援用しつつ、環境問題に対して経済学的にアプローチをするとともに、環境政策における有効な経済的手段について検討を行う予定である。</p>	<p>[講義計画]</p> <p><前期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境問題と経済学 ・パレート基準と社会厚生基準 ・市場の失敗と政府の役割 ・環境問題と公共財 ・外部性 <p><後期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・枯渇性資源と環境問題 ・外部性の内部化 ・環境価値の経済評価 ・社会的費用便益分析 ・環境政策における経済的手段 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学年末試験の成績による。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>植田和弘(著)『環境経済学』(岩波書店) 赤尾健一(著)『地球環境と環境経済学』(成文堂) P.-O.ヨハンソン(著)『環境評価の経済学』(多賀出版) ポール・W・パークレイ、デビット・W・セクラ(著)『環境経済学入門』(東京大学出版会)</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特に指定しない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中小企業論		通 期	4 単位	庄 谷 邦 幸
【講義概要・学習目標】 産業革命以降、とくに20世紀に入ってからの大量生産体制と大量浪費のシステムについての見直しが行なわれている。一方、日本では「日本の経営」の反省・見直しが行なわれている。 21世紀を迎えるにあたり、成熟資本主義国では企業者精神、ベンチャー精神の振興が課題になっている。中小企業問題をマクロ的視点とミクロ的視点から考えてみよう。	【講義計画】 (1) 経済発展と中小企業「問題」、(2) 国民経済と中小企業 (3) 産業組織と中小企業、(4) 中小企業の経営問題 (5) 中小企業の金融問題、(6) 中小企業の労働問題 (7) 技術開発と中小企業、(8) 情報ネットワークと中小企業 (9) 流通近代化と中小企業、(10) サービス経済化と中小企業 (11) 地域コミュニティと中小企業、(12) 国際化と中小企業 (13) 中小企業の組織化、(14) 中小企業政策の課題			
【成績評価の方法】 年2回のレポートの提出と学年末試験の評価による。	【参考文献】 中小企業庁編『中小企業白書』(各年)、大蔵省印刷局 E.F. シューマッハー、小島慶三・酒井懋訳 『スモールイズビューティフル 講談社 1986年』 —人間中心の経済学—			
【教科書】 藤田敬三・竹内正巳編『中小企業論[第4版]』有斐閣 1998年				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
地域経済論		通 期	4 単位	芝 村 篤 樹
【講義概要・学習目標】 日本近代都市の形成と展開について、戦後の高度経済成長期までたどる。そして、現代都市の諸問題を考えたい。その際に、主な対象となるのは大阪である。講義室を友人の交流・団欒の場と心得る諸君の入室を厳禁する。つまり、私語は禁止である。	【講義計画】 1. 日本近代都市の形成 2. 1920・30年代の都市 3. 都市における戦前と戦後 4. 高度経済成長期の都市 5. 現代都市の課題			
【成績評価の方法】 夏休みレポート、講義時の小レポート、期末試験。期末試験の比重は70%程度	【参考文献】 必要に応じて指示する。			
【教科書】 小山仁示・芝村篤樹著『大阪府の百年』(山川出版)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
地域政策論		通 期	4 単位	寺 中 直 人
[講義概要・学習目標] 近年の不況の原因の一つは、広い意味で「不良債権化した土地問題」にある。これまでわが国は、地価は必ず上がるとする「土地神話」に基づいてあらゆる政策体系が形成されてきたので、迫り来る災厄を前にして茫然自失に陥っている。しかし、こういった事態は経済学を学ぶものにとって、土地・住宅問題を一から考え直す良い機会である。 この講義では、地域政策の中でも、特に都市における土地・住宅問題を経済学的に考える。住宅という領域は、従来、建築学、生活科学の分野で、住居の物的な構造や住い方の問題を中心に扱われてきた。しかしこのようなアプローチだけでは、地価はどのようにしてきまるのか、望ましい土地・住宅税制とは何か、問題の解決に向けて「公共」や「民間」は、どのような役割分担をすればよいのかというような問題に適切な解を与えることはできない。そこで、こういった問題を経済学ではどういうふうにとらえたらよいのか、また、分析するためにどのような道具があるかということを紹介する。 履修者は、経済学理論の初歩的知識を持っていることが望ましいが、まったく知らない人でも参加できるように、時間が許す限り基礎的なことから復習しつつ講義を進めるつもりである。ただし、講義に対する「熟慮」は不可欠である。	[講義計画] <前期> 1. わが国の土地・住宅問題の歴史と現状 2. 土地の理論-地代、地価 3. 土地政策-土地税制、土地規制 <後期> 1. なぜ、住宅問題に政府は介入するのか 2. 住宅政策の経済学的分析 3. 諸外国の動向とこれからの住宅政策			
[成績評価の方法] 学年末試験の成績を最終的な評価とするが、2～3回小テストを行うつもりである。詳細については、講義の中で説明するので、学期の最初と最後の授業は、出席したほうがよいであろう。	[参考文献] 山田浩之『都市の経済分析』（東洋経済新報社、1980年） 本間義人『住宅-産業の昭和社會史5』（日本経済新聞社、1987年） 宇沢弘文・堀内行蔵編『最速都市を考える』（東京大学出版会、1992年） 宮尾尊徳『現代都市経済学』（日本評論社、1995年） 岩田規久男・八田達夫編『住宅の経済学』（日本経済新聞社、1997年）			
[教科書] 玉井金五・大森真紀編『社会政策を学ぶ人のために』（世界思想社、1997年）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
農業経済論		通 期	4 単位	浦 出 俊 和
[講義概要・学習目標] 近年、我が国の農業を取り巻く状況は、ガット・ウルグアイ・ラウンドの合意や食糧管理法の廃止など、大きく変化してきていると同時に、農業が抱える問題は複雑化している。もちろん、我が国の農業を考える場合、世界の農業の展開も無視できない。つまり、農業問題をとらえるためには、農業のもつ特質、農業・農村の実態、世界の農業情勢を把握することが必要となる。 本講義では、まず、これら実態に関する知識を深めることから始め、その上で、経済学、特に、ミクロ経済学の理論を用いて、様々な農業に関する経済現象を分析していく予定である。 本講義が目標とすることは、各自が農業の抱える問題を正しく認識し、その将来方向について自分の考えを述べる事が出来るようになることである。	[講義計画] <前期> <ul style="list-style-type: none"> ・経済発展と農業の特質 ・我が国の経済と農業 ・日本農業の構造変化 ・農業経営と農家経済 ・食料の需要と供給 <後期> <ul style="list-style-type: none"> ・農産物の流通 ・世界の人口と食糧問題 ・農産物貿易と農業保護政策 ・農業と環境 ・日本の農業政策と世界の農業政策 			
[成績評価の方法] 学年末試験の成績による。	[参考文献] 荏開津典生（著）『農業経済学』（岩波書店） 土屋圭造（著）『農業経済学』（東洋経済新報社） 庄源寺・谷口・藤田・森・八木（著）『農業経済学』（東京大学出版会） 堀田忠夫（編著）『国際競争下の農業・農村革新』（農林統計協会）			
[教科書] 特に指定しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ
産業構造論		通 期	4 単位	庄 谷 邦 幸
【講義概要・学習目標】 日本の現在の閉塞状況の基底には、構造的要因——日本的経営の見直し、「産業の空洞化」、バブル崩壊による逆資産効果など——と、景気循環的要因が重なっている。この閉塞状況も打開するためには、一時的な景気対策だけでなく、構造的諸改革が求められている。 この講義では、各産業、企業が活躍している第一線のエコノミストに、各産業の最新の情報にもとづいて、構造的特徴、問題点、展望を述べていただく。	【講義計画】			
【成績評価の方法】 1年間をI期、II期、III期、IV期に分け、各期から最低1つのテーマを選んで、それぞれの講師が出題したテーマについてレポートを作成してもらう。それらを総合的に評価する。	【参考文献】 その都度、指示する。			
【教科書】 桃山学院大学編『産業構造論・資料集』有斐閣				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
商法 I	01	通 期	4 単位	牛 丸 與 志 夫
【講義概要・学習目標】 会社のうち、特に株式会社についての法規制を講義する。株式会社の設立、運営機構、計算、資金調達および基礎的変更についての規制を講義する。	【講義計画】 前期に株式会社の設立および株式のあたりまで、講義する。残りは、後期に講義する。練習問題を解きながら、講義を行う。			
【成績評価の方法】 試験	【参考文献】			
【教科書】 1. 酒巻他5名著「テキストブック会社法」(最新版) 有斐閣ブックス(有斐閣) 2. ポケット六法(有斐閣)*他の出版社の六法全集もよい。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
商法 I	02	通 期	4 単位	吉 見 研 次
[講義概要・学習目標] この講義では、商法のうち会社法について講述する。『商法概論』でも会社法の基本的なしくみを説明しているが、本講義ではより詳細に会社法の諸問題を説明していきたい。重要な最高裁判例も積極的に取り上げて検討するつもりである。それだけに多少とも難解な内容になることは避けられないが、学習意欲の強い学生諸君の受講を期待したい。 なお毎授業時に『六法』を携帯すること。私語も遅刻も厳禁。その他受講時の留意事項について、最初の授業の際に言及する。	[講義計画] I 会社法総論 (1)会社の性質 (2)会社の種類 (3)法人成り II 株式会社法 (1)設立(設立手続、発起人、設立の瑕疵) (2)株式(株主の権利義務、株式譲渡、株式取得の制限) (3)株主総会(総会決議、総会の活性化、決議の瑕疵) (4)取締役・取締役会(取締役、取締役会・代表取締役、取締役の義務、取締役の責任) (5)監査役・会計監査人 (6)資金調達(新株発行、社債) (7)計算(計算書類、資本・法定準備金、利益配当) (8)基礎的変更(合併・営業譲渡、その他の変更) III その他の会社法 (1)有限会社法 (2)合名会社法 (3)合資会社法			
[成績評価の方法] 学年末テストを実施するが、正誤文選択等の短答式にするか、論述式にするかは未定である(できるだけ早く決定し、授業時間中に公表する)。	[参考文献] 平井宜雄他編『ポケット六法 平成11年版』(有斐閣) 田村諒之輔他編『目で見える商法教材 第2版』(有斐閣) その他、授業時間中に適宜紹介する。			
[教科書] 岩崎俊他『セミナー-商法』(日本評論社)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済法		通 期	4 単位	牛 丸 與 志 夫
[講義概要・学習目標] 独占禁止法の概要を講義する。私的独占の禁止、不当な取引制限の禁止、不公正な取引方法の規制、その他を講義する。	[講義計画] 前期に、私的独占の禁止および不当な取引制限の禁止まで講義する。具体的な審決判例を検討し、条文の意味を考察する。後期は、不公正な取引方法の規制、その他を講義する。			
[成績評価の方法] 試 験	[参考文献]			
[教科書] ①今村 成和「独占禁止法入門」(第4版)有斐閣双書(有斐閣) ②今村 成和・厚谷襄見「独占禁止法審決判例百選」(第5版)別冊ビジネスNo.141(有斐閣) ③ポケット六法(有斐閣) *他の出版社の六法全書でもよい。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
比較経済体制論		通 期	4 単位	上野 勝男
<p>[講義概要・学習目標] わたしたちは「ソ連（ロシア）経済はどんなもの？」ときかれたら、少し勉強した諸君ならば次のように答えるだろうか。つまり、旧ソ連では企業活動の自由がなく、命令でがんに縛られ、消費者は選択の余地もなく、また商品はいつも不足していた。こうした「社会主義的計画経済」が行き詰まったために崩壊して、いまでは「体制転換」といわれて、西側と同じような「市場経済」＝資本主義のシステムへ移行しつつある最中だ、と。</p> <p>たしかに「社会主義から資本主義への移行」というのはわかりやすい。でも、長引く不況、数々の大企業のスキャンダル、倒産、金融不安という状況にあるわたしたちの国日本も「市場経済」＝資本主義だということを思うと、少し考え込んでしまう。こんな矛盾だらけの資本主義が永遠に続くシステムなのか？、それに、社会主義とは本来資本主義の矛盾を克服する体制だったはずなのでは？、ソ連は本当に社会主義だったのか、崩壊したのは本当に「社会主義」体制のためだったのか？等々。この講義は、こうした疑問をじっくり考えることを目標としています。講義では、①旧ソ連の経済体制をどう考えるか、②社会主義とは本来どのようなものか、③わたしたちの生きる現代資本主義にとって社会主義はどのような意味をもつのか、④ロシア・東欧諸国で進行する「体制転換」をどう考えるかをポイントにしてすすめます。</p>	<p>[講義計画] <前期> 序 論 はくの「比較経済体制論」とは？ 第Ⅰ部 社会主義とは何か？ 1. 資本主義の基本矛盾 2. 現代資本主義と民主主義 3. 社会主義的将来の本質と発展</p> <p><後期> 第Ⅱ部 ソ連経済史概説－「社会主義経済」だったのか？－ 4. 十月革命 5. ネップ（新経済政策）の試み 6. 大転換とソ連型経済制度の成立 7. ソ連経済の構造と矛盾 8. 経済改革から「体制転換」へ 第Ⅲ部 「体制転換」の虚像と実態 9. ロシアにおける「体制転換」 10. 未来はどこに</p>			
<p>[成績評価の方法] 資料プリントを頻繁に配布しますので、講義への出席を重視します。試験・レポートなどとあわせて、総合的に成績を評価します。講義の進め方・評価方法を知る上で、第1回目の講義は必ず出席してください。</p>	<p>[参考文献] E.T. ガイダール(上野ほか訳)『経済改革とヒエラルキー構造』(見洋書房) 浅羽・瀧澤編著『世界経済の興亡200年』(東洋経済新報社)</p>			
<p>[教科書] 使用しません。しかし、右に示した重要な参考文献とともに、随時参考にするべき文献は指示します。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際金融論		通 期	4 単位	落 谷 硯 児
<p>[講義概要・学習目標] 対外外国為替および外国為替相場の基本について学習し、対外外国為替・金融市場について取組む。次に為替リスクとリスクヘッジの手段と方法(デリバティブ等)について学習する。さらに国際収支および国際通貨の諸概念と主要統計および対外為替の講義を行う。 国際金融論について最も関心と興味のある為替相場と国際収支の関係および為替相場決定理論についての講義に続いて、国際通貨制度の理論および歴史について講義を行う。最終章として本格的なスタートを切ったヨーロッパ通貨統合(ユーロ)と新しい国際通貨システムの展望を行う。</p>	<p>[講義計画] 前期は外国為替および為替リスクヘッジ、国際収支と国際通貨等の対外テキストの順序に従って講義を行う。 後期は為替相場と国際収支、為替相場決定理論、国際通貨制度の理論と歴史、新しい国際通貨システムの展望の順序で講義を行う。 その間外国為替相場および国際通貨制度についてビデオによる学習を4-5回行う予定。 さらに毎日 毎日新聞紙上に掲載されている国際金融関連記事について時事解説を行う。</p>			
<p>[成績評価の方法] 出席状況、提出レポート(夏期休暇後)および期末等に試験の成績による判定する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書] 秦忠夫・本田敬吉著『国際金融のしくみ』 ￥1800＋税 有斐閣アルマ</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際経済論		通 期	4 単位	三 邊 信 夫
[講義概要・学習目標] <p>この講義では、国際経済学の基礎理論を解説する。国際経済学は、国際間における取引（trade）つまり貿易に関する事柄を研究対象としている。取引である限り最低2つの国（または2人）および2つの財貨の存在が必要である。貿易は両国間の効用関数の差異（つまり両国民の間の趣好の差異）があれば行われるが、その財貨が生産物である場合、生産関数が問題となる。財貨を生産する技術や生産要素、つまり労働や資本の要素賦存量の国際的差異を考えに入れなくてはならない。価値または価格という場合も生産物間の交換比率だけではなく、生産要素間の交換比率つまり要素価格比率（または分配率）および両者の間の関係が考慮されねばならない。さらにこれらの基礎的条件が変化した場合、具体的には、技術進歩や資本蓄積、労働人口の増加が行われたとき、交易条件やその国の生活水準に及ぼす影響なども分析される。</p>		[講義計画] 〈前期〉 1. 比較生産費と国際的賃金格差 2. 多数国多数財貿易、有効生産パターン、賃金構造と特化 3. 交換経済、オファー曲線、貿易利益 4. 均衡の安定性、マーシャル・ラーナーの安定条件 〈後期〉 5. 生産論、等生産量曲線と生産可能曲線 6. 貿易方向の決定、ヘクシャー・オリーオン理論、国の規模、技術進歩 7. 要素価格均等化論、ストルパー・サムエルソン理論 8. 比較生産費基準と所得弾力性基準 9. 経済成長と交易条件		
[成績評価の方法] 出席、試験、レポート		[参考文献]		
[教科書] 三邊信夫（著）『国際貿易と経済成長理論』（大阪市立大学経済学会）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
アジア経済論		通 期	4 単位	厳 善 平
[講義概要・学習目標] 1. 概要 数年前、「21世紀はアジアの時代」という喧伝は日本では盛んであった。しかし、そのアジアは、タイのバーツが下落した1997年7月以降、深刻な通貨・金融危機に見舞われ、今や、全く反対の意味で世界の関心を集めている。アジア経済の高度成長はいったい何であったのか。今回の経済危機は何によって引き起こされたのか。今後のアジア経済の可能性は如何なるものであろうか。こうした問題を考えるための理論的枠組みや、東アジア、東南アジア各国の経済状況およびその相互依存関係の形成、現状と問題点などを包括的に解説する、ということは本講義の主たる目的である。 国別のことをより詳しく知りたい場合は、「中国経済論」、「韓国経済論」などの受講を勧める。		[講義計画]		
[成績評価の方法] 前期レポート＋期末試験		[参考文献]		
[教科書] 未定				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ヨーロッパ経済論 (旧経済学特講-ヨーロッパ経済論)		通 期	4 単位	大 沼 穰
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>2度に行なわれた戦後のヨーロッパの没落と帰途が、互に死生を賭けてヨーロッパが遂行したのは経済統合の道であり、今日おこなった実験の途上にある。「拡大と深化」として進めつつ西欧面ではあるものの、冷戦の終焉と共に東欧北欧と接点をみつつある。国境を越えて新たな実験単位EUの経済的発展から始めている。教材本座が英文による導入と検討中である。</p>	<p>[講義計画]</p> <p><前期> EUの経済学。 a. 統合の歩み b. マクロ経済 c. 雇員と企業 d. 貿易 e. 農業問題 f. 通貨統合</p> <p><後期> 主要国の経済的個性 a. イタリアとドイツ b. ミッドランドとフランス c. 東西統一ドイツ</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>レポート提出、定期試験、出席などによる総合</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>内田晴敏・清水復俊「EC経済と見方」(有斐閣 新書)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者																		
アメリカ経済論 (旧欧米経済論)		通 期	4 単位	中 本 悟																		
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>本講義では現代アメリカ経済の構造と発展について、いくつかの領域に分けて講義する。アメリカ経済において生じてきたことは、遅かれ早かれ日本においても生じてきた。</p> <p>しかし、アメリカで生じたことが同じ形で日本やアジアで生じているわけではない。アメリカにはアメリカ固有の経済制度、経済法、行政機構、イデオロギーがあり、日本とは異なった形態で問題が生じ、したがってまた異なった解決がなされることが多い。この意味では、こんにちの主流派の経済理論がアメリカ経済を土台として書かれており、日本経済およびアジア経済研究を土台に経済理論の創造的発展が求められていることも、本講義を通じて理解できるであろう。</p> <p>こうしてアメリカ経済を知ることは日本経済をいっそう深く知ることになる。本講義においては、それぞれの主題について、問題の構造と歴史的展開、現状、政策課題について説明するとともに、とくにアメリカ経済の比較制度的研究を重視する。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>講義は、I部とII部から成り、各主題ともに2回程度の講義である。</p> <table border="0"> <tr> <td>I部 アメリカ経済の基本構造</td> <td>II部 アメリカ経済の対外関係</td> </tr> <tr> <td>①産業構造と企業経営</td> <td>①アメリカの貿易構造</td> </tr> <tr> <td>②多国籍企業とアメリカ経済</td> <td>②国際通商法と通商政策</td> </tr> <tr> <td>③単産複合体とハイテク産業</td> <td>③貿易救済法と通商政策</td> </tr> <tr> <td>④農業とアグリビジネス</td> <td>④貿易自由化と産業調整制度</td> </tr> <tr> <td>⑤在米外資系企業とアメリカ経済</td> <td>⑤アメリカとAPEC</td> </tr> <tr> <td>⑥金融市場の発展と金融革新</td> <td>⑥NAFTAとアメリカ経済</td> </tr> <tr> <td>⑦財政制度と財政政策</td> <td>⑦日米貿易摩擦の歴史と現状</td> </tr> <tr> <td>⑧「ニューエコノミー」論の検討</td> <td></td> </tr> </table>				I部 アメリカ経済の基本構造	II部 アメリカ経済の対外関係	①産業構造と企業経営	①アメリカの貿易構造	②多国籍企業とアメリカ経済	②国際通商法と通商政策	③単産複合体とハイテク産業	③貿易救済法と通商政策	④農業とアグリビジネス	④貿易自由化と産業調整制度	⑤在米外資系企業とアメリカ経済	⑤アメリカとAPEC	⑥金融市場の発展と金融革新	⑥NAFTAとアメリカ経済	⑦財政制度と財政政策	⑦日米貿易摩擦の歴史と現状	⑧「ニューエコノミー」論の検討	
I部 アメリカ経済の基本構造	II部 アメリカ経済の対外関係																					
①産業構造と企業経営	①アメリカの貿易構造																					
②多国籍企業とアメリカ経済	②国際通商法と通商政策																					
③単産複合体とハイテク産業	③貿易救済法と通商政策																					
④農業とアグリビジネス	④貿易自由化と産業調整制度																					
⑤在米外資系企業とアメリカ経済	⑤アメリカとAPEC																					
⑥金融市場の発展と金融革新	⑥NAFTAとアメリカ経済																					
⑦財政制度と財政政策	⑦日米貿易摩擦の歴史と現状																					
⑧「ニューエコノミー」論の検討																						
<p>[成績評価の方法]</p> <p>講義のあとで、時に応じて講義の感想を書いてもらう。年度末の試験の成績が評価の基本です。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>横田 茂(編)『アメリカ経済を学ぶ人のために』 (世界思想社、1997年)</p>																					
<p>[教科書]</p> <p>前期は、平井・萩原・中本・増田(共著) 『概説アメリカ経済』(有斐閣) 後期は、別途指示する。</p>																						

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国経済論		通 期	4 単位	巖 善 平
【講義概要・学習目標】 1. 概要 マスメディアの発達によって、日本における中国の様々な情報が氾濫するほど多くなっている。しかし、中国が近くて遠いという人は決して少なくはない。 過去20年間、中国は内部の体制改革と対外開放を国策として掲げ、経済の発展をすべての政策の中心に据えていた。その結果として、年平均10%近くの経済成長率が遂げられた。そして、日本を含む世界各国との様々な関係が一層緊密化している。しかし一方では、急変する中国社会の中に多くの問題や矛盾が目立ってきている。 この講義で、現代中国社会、特にその経済の側面に解説の重点を置き、まず中国社会主義経済の成立→運営→改革の軌跡を簡単に触れる。そのうえ、改革開放以来中国の経済発展とその構造変化の諸側面を取り上げ、生の情報を交えながら、紹介と説明を行う。また、講義の理解を深めるため、関連のドキュメンタリーも放映する。 この講義を受けることにより現代中国社会の諸相をより深く理解できるはずである。	【講義計画】 2. 構成 一. 毛沢東時代の中国経済 1. 中国社会主義経済の成立から改革までの軌跡 ー私有化→社会主義改造 2. 経済の成長メカニズム ー農工関係の政治経済学 3. 社会経済の基本的仕組み ー国営企業、人民公社 4. 社会主義経済を支える制度的基礎 ー戸籍制度、食糧制度、保障制度等 二. 登 小平時代の中国経済 1. 改革開放のプロセスとパフォーマンス ー漸進的改革が良かったか 2. 市場経済を担う主役達 ー郷鎮企業、私営企業、外資系企業 3. 人口、食糧、資源、環境 ー中国経済発展の制約か 4. 「均富論」から「先富論」への方針転換とその結果 ー格差はどう見るか			
【成績評価の方法】 前期レポート＋期末試験	【参考文献】 王曙光等『最新教科書・現代中国』柏書房 1998年／生協で購入			
【教科書】 中兼和津次著『中国経済発展論』有斐閣 / 1999年3月				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
民法 I		後期集中	4 単位	林 錫 璋
【講義概要・学習目標】 日常生活の中で、もっとも関係の深い契約を中心に、契約の種類、契約の解釈、契約の当事者、契約の成立要件、そして、契約の無効と取消、債務不履行による契約解除と損害賠償、代理、無権代理などの問題につき、関連する法令をも含めて、民法の通説的理論及び判例を総合的に解説する。さらに、割賦販売、訪問販売、通信販売、クレジット契約、リース契約など現代的特殊契約の仕組みとその問題点についてもとりあげる。 なお、債権の発生原因である不当利得、事務管理、不法行為なども順を追って講述する。	【講義計画】 1, 市民法の現代的意義とその変貌 2, 私権とその制限 3, 取引安全の保護 4, 時効制度について 5, 物権的請求権について 6, 契約の意義と種類 7, 契約の内容と解釈 8, 契約の当事者と契約の成立 9, 無権代理と表見代理 10, 意思表示の不一致 11, 瑕疵ある意思表示 12, 契約の無効 13, 契約の取消 14, 同時履行の抗弁と不安の抗弁 15, 危険負担 16, 契約の法定解除と約定解除 17, 債務不履行 18, 割賦販売・訪問販売と消費者 19, リース契約 20, クレジット契約 21, 不法行為による損害賠償 22, 過失責任と無過失責任 23, 交通事故による損害賠償 24, 公害と環境問題			
【成績評価の方法】 年度末試験を重視し、レポートと出席を加味して総合評価する。	【参考文献】 甲斐道太郎・石田喜久夫（編）『民法教室（1）（2）』（法律文化社）			
【教科書】 谷口知平・甲斐道太郎（編）『新版 現代民法入門』（法律文化社） 判例六法編集委員会（編）『コンサイス判例六法』（三省堂）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
民法Ⅱ		通 期	4 単位	米 山 隆
【講義概要・学習目標】 債権と物権との交錯。 債権が金融資本として優越していることを 総論とする。 債権関係の崩壊として、履行不能、履行 遅滞、積極的債権侵害、信義誠実を各論とする。	【講義計画】 1-1ととること、市販の教科書にのべられていない ことを強調する。			
【成績評価の方法】 出席を重視する。期末試験による。	【参考文献】 次のつと照会する。			
【教科書】 とくに使わない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
商法Ⅱ		通 期	4 単位	牛 丸 與志夫
【講義概要・学習目標】 手形法、小切手法の基礎的な知識の修得をめざす。 手形の振出、裏書、支払、為替手形の特別および小切手 の特別をみていく。	【講義計画】 前期で、手形の振出に関する種々の問題を考察する。 後期で、残りの部分を講義する。練習問題を解きま がる、講義する。			
【成績評価の方法】 言式試験	【参考文献】			
【教科書】 ① 田中昭仰他5名「テキストブック手形法 小切手法」 有斐閣ブックス（有斐閣） ② ポケット民法（有斐閣）*他の出版社の民法全書でもよい。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
行政法		通期	4 単位	寺田 友子
<p>[講義概要・学習目標] 行政法とは、日本国憲法が規定する権力分立の下での行政の組織、作用及び手続に関する法全体をいう。日本国憲法は、生存権の保障等、種々様々な行政活動を要請している一方、行政の組織及び活動に関しては原則上、法律で規律することを要求している。しかし、法律を中心とする行政法は一律でないために、基本する法典も存在せず、法令の数も非常に多い。この多様で広範にわたる行政法を総合的に認識するために、行政法学は抽象的な学問的概念を駆使して理論体系化を行ってきた。本講義は「行政をその行為形式によって把握し、説明する」伝統的な行政法の理論体系に基づいて、その行為形式中、最重要と解されてきた「行政行為」概念を中心に、その他の行為形式をも含めて理解を深めることを目標とする。その際、行政行為概念の基盤には取消訴訟が存在する。その帰結である判決を検討することによって、行政の執行過程についても理解を深めたい。その際、情報公開の意義についても認識したい。また、行政の違法行為に対する救済手段である取消訴訟における問題点等について理解を深めたい。また、行政の違法行為によって生じた国民の損害に対する救済手法についても検討したい。とともに、事後的救済だけでは十分に救済されないため、行政手続法に代表される事前手続についても理解を深めたい。</p>		<p>[講義計画] 前期 行政法の基礎的問題 §1 行政と行政法 2 法律による行政法の原理 3 行政組織と行政立法 4 行政救済法の概略 5 行政行為の概念 6 行政手続 後期 行政行為と行政過程 §7 行政行為の種別 8 行政行為の瑕疵 9 職権取消と撤回 10 行政計画 11 行政強制 12 行政調査 13 行政指導</p>		
<p>[成績評価の方法] 基本的には、前期及び後期に行うテストで成績評価を行うが、レポート提出出席いかん、授業時間内に行うテスト等も評価に加味する場合がある。</p>		<p>[参考文献] 塩野宏『行政法 I』有斐閣 原田尚彦『行政法要論』学陽書房 小高剛『行政法争論』ぎょうせい 『行政判例百選 I・II』（第4版）有斐閣</p>		
<p>[教科書] 今村成和『行政法入門』（第6版）有斐閣</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本史	01	通 期	4 単位	寺 木 伸 明
<p>[講義概要・学習目標] 歴史学習という暗記することと思わせる授業が、歴史嫌いを招いている。暗記も必要だが、それは歴史を理解するための手段にすぎない。本当の歴史理解とは何か、共に考えていきたいと思う。 本講義では、日本の歴史の中からいくつかのテーマをとりあげて、進めていくことになるが、その際、近代・現代のテーマもできるだけ取り上げるようにしたい。その理由は、高校までの日本史学習が、時間数の関係で近・現代まで詳しくなされることが少ないからであり、また歴史学習とは単に過去を興味本位に断片的に知るのではなく、現在を理解するためにこそ過去を系統的に勉強することによって、それゆえできるだけ現在に近い過去のことをよく知っておく必要があるからである。 また、歴史をさまざまな角度から見ながら総合的に理解できるようにするとともに、歴史の流れにおいて把握できるように心掛けたい。</p>		<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歴史とは何か、歴史の見方はどうあるべきか 2. 日本人の成り立ち 3. 縄文社会とは 4. 国の成り立ち—小国家・邪馬台国など 5. 古代社会と国際関係 6. 中世社会と民衆の生活・文化 7. 近世社会の実相—従来の身分制の理解は正しいか、百姓は農民か、鎖国は文字どおりの鎖国だったか、など 8. 近代日本と国際環境 9. 日清・日露戦争とアジア 10. 朝鮮の植民地支配の実態 11. 第2次世界大戦と日本の侵略の実相 12. 戦後の日本と世界 		
<p>[成績評価の方法] 前期も後期も試験を行い、この成績を中心に、時々課すレポートの内容を加味して評価する。</p>		<p>[参考文献] 小和田哲男『日本の歴史がわかる本』〔古代～南北朝時代〕篇、〔室町～戦国時代～江戸時代〕篇、〔幕末～維新～現代〕篇、三笠書房</p>		
<p>[教科書] 竹内 誠・佐藤和彦・君島和彦・木村茂光編『教養の日本史』（東京大学出版会）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本史	02	通 期	4 単位	横 井 清
[講義概要・学習目標] 原始・古代から近代に到るまでの日本史上の重要事件・人物などに焦点を絞りつつ、分かりやすく解説して、主として将来、歴史を教える側に立とうとしている諸君が、まずは自分自身が日本の歴史を学ぶ楽しさ、意義深さに開眼するように取り運んで行きたいと思う。	[講義計画] 先ず、「歴史の時代区分」についての解説を丁寧に行い、しかるのちに、時代順に「事件」や「人物」を逐って行く。 原則的に毎時間の主題は異なるが、予め提示はせず、科目の性質上基本的に重視されるべき問題点をベースにしながらも、時々話題性ある政治・社会・文化の諸問題にも注目して、主題を設定して行く。			
[成績評価の方法] 学年末の筆記試験による。	[参考文献] 各主題に応じた内容の資料プリントを、そのつど配付する。 参考とすべき図書などについては、必要に応じて随時授業の中で紹介する。			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国史	01	通 期	4 単位	坂 昌 樹
[講義概要・学習目標] 社会科教育をする上で必要なものの考え方に重点を置いた授業をします。過去と現在をさまざまな視点から比較し、歴史からなにを学べるか一緒に考えていきたいと思います。 授業中には高校用教科書を使つての模擬授業（前期）や、ビデオを見て感想文を提出し、それにもとづいて議論をする機会があると思います（後期）。これらへ積極的に参加し、みなさん自身がこの授業を作り上げてみてください。 学ぶテーマとしては西欧の近・現代史を主な対象とし、近代化の歪み（ファシズム、排他的民族主義など）や現代社会の諸問題（外国人労働者など）、さらに歴史教育上の諸問題（教科書問題など）を予定しています。	[講義計画] I. 導入：歴史教育について II. 教育実習に向けて 1. 模擬授業 高校『世界史』の教科書とその教育方法の検討 III. 過去から現在への歴史的連続性を考える 1. 社会的マイナリティーの歴史 ユダヤ人、移民、難民、外国人労働者 2. 援助の歴史 戦後補償と経済援助 IV. 歴史教育を考える 1. 歴史教科書と歴史観の問題			
[成績評価の方法] 授業への積極的参加（模擬授業やビデオ感想文の提出）と学年末試験（受講者が少数ならレポート）などにより総合的に評価する。	[参考文献] 『詳説 世界史』（高校用世界史教科書B）山川出版社 鈴木亮『日本からの世界史』大月書店（¥1900）			
[教科書] 指定しない。				